

オンライン授業実施状況の調査と分析

Survey Analysis on the Implementation and Status of Online Classes

山本 恵

Megumi YAMAMOTO

若山公威

Kimitake WAKAYAMA

眞鍋和弘

Kazuhiro MANABE

宮本真有

Mayu MIYAMOTO

はじめに

新型コロナウイルスの感染が蔓延する中、名古屋外国語大学では原則としてオンラインでのみ授業を開講することを決断し、2020年4月27日より1期の授業を開始した。授業方式は、リアルタイム双方向型／オンデマンド配信型／資料・課題提示型の3種類の何れか、あるいは組み合わせとしている。新型コロナウイルス対策チーム、学部学科等各部署のヘルプデスク、メディア情報教育センター¹、およびメディア情報・データ科学センター（以下、MIDセンター）²が中心となり、オンライン授業の運営に関する提案や支援、諸問題の解決にあたった。オンライン授業は大学として初めての試みであり、十分な準備期間が得られないままの実施であったが、授業の主体である学生、教員が自ら積極的にICTデバイスやシステムを習得するべく努力し、全学一丸となって取り組んだことにより、前期の授業を最後まで行うことが出来たと言える。

この半期間で得た経験は大きな財産であり、今後に備えて問題を整理し改善点を明らかにすることは重要である。またオンライン授業が対面授業にない利点を持つことも認識されつつあり、対面中心になっても、必要に応じてオンライン授業を導入することで、効果的な教育を実現できる可能性があ

る。そこでMIDセンターの調査分析チームでは、オンライン授業に関わったできるだけ広範囲の人を対象に全学的な調査を行った。具体的には、サポートデスクの対応記録、学生へのアンケート、教員へのアンケートという3つのアプローチから調査し分析した。これらの結果は報告書として教員向けイントラネットサイトに掲載するとともに、2期開始前のFD研修会にて口頭発表し、情報共有を行った。本調査報告は、掲載済みの報告書に改編・加筆したものである。

以下第1部ではサポートデスクの対応状況の分析結果を、第2部では全学部生を対象としたアンケート調査の分析結果を、第3部では教員を対象としたアンケート調査の分析結果を報告する。最後に第4部として、学生と教員に共通の質問項目について分析した結果を報告する。

【山本恵】

第1部 サポートデスク対応の集計と分析

1.1 全学でのサポートデスク対応件数

第1部では、オンライン授業開始を公式アナウンスした2020年4月10日以降の、サポートデスクにおける問い合わせ内容に関する、集計および分析結果を示す。今後の講習会やサポート体制の強化に役立てるのが目的である。

このサポートデスクは、オンライン授業が開始されて急増する問い合わせに対応するために学内に設けられたものである。大まかに分けると、機器関係はメディア情報教育センター、一般的な問い合わせは各学科などが担当することになっている。

今回用いた問い合わせリスト一覧は、2020年7月14日にMIDセンターから各学科・センター等に情報提供を依頼した結果、提出されたものである。リスト項目は学科・センター等によって異なるものの、問い合わせの日付、問い合わせ内容、その対応が最低限含まれている。問い合わせの具体的な日付が書かれておらず、件数が「多数」と書かれているものは1件として扱っている。報告された対応件数は、表1の通りである。なお、問い合わせ内容について記録していない場合や、正式なサポートデスク経由ではなく、直接教

表1 サポートデスク対応件数（報告分のみ）

学科等名	件数
メディア情報教育センター	952
英米語学科	10
フランス語学科	8
中国語学科	13
世界教養学科	18
国際日本・日本語学科	4
現代国際学部	27
世界共生学部	78
教学マネジメント推進室	170
大学院	1
合計	1281

員に問い合わせがあり対応したのものもあると思われるが、これらについては今回の対象外となる。

1.2 メディア情報教育センターへの問い合わせ内容の分析

まずは、大きな割合を占めているメディア情報教育センターへの問い合わせ内容についてみていく。表2に、メディア情報教育センターへの問い合わせ内容の内訳を示す。

「NUFS-ID関連」は、大学GmailやClassroomにログインできないといったものが多くを占めている。これらは、パスワード統合処理を行うことでログインできている。「Office関連」は、ほとんどがOffice365利用申請に関するものであった。「大学Gmailアカウント認証」は、センターサイト内の教員専用ページへのアクセスに関するものである。

センターへの週単位での問い合わせ件数の推移を図1に示す。オンライン授業を行うことが公式にアナウンスされてから急増し、授業開始1週間前にピークになっている。授業が開始されるに従い減っていき、Zoomサイトライセンスを利用できるようになると問い合わせ件数が増えていることが分かる。

表2 メディア情報教育センターの内訳

分類	件数
Moodle	297
Google Classroom	140
NUFS-ID 関連	87
Zoom	71
Office 関連	67
オンライン授業以外のセンター業務	53
Google Meet	51
大学 Gmail アカウント認証	33
G Suite 関連	32
貸与パソコン	31
パソコン・スマホ操作	27
授業関連（機器やソフト以外）	18
オンライン授業全般	10
自宅環境	9
LMS 全般・その他	8
講習会	7
動画・音声コンテンツ	5
詳細不明	4
オンライン会議システム全般	2
合計	952

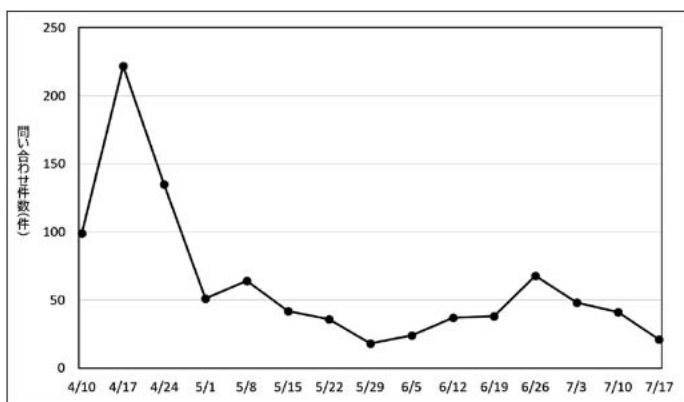


図1 メディア情報教育センターへの問い合わせ件数

以下では、特に件数が多い「Moodle」「Google Classroom」「Zoom」「Google Meet」について、内訳をみていく。

1.2.1 メディア情報教育センター「Moodle」の内訳

表3に、メディア情報教育センターへのMoodle関連の問い合わせ内容の内訳を示す。

最も多かったのは、アカウント作成申請およびカテゴリ作成申請であった。今回初めてMoodleを利用する教員は、アカウント作成が必要となるためである。また、授業コースを作成する際には、通常、教員名のコースカテゴリに作成することになる。このコースカテゴリが無い場合にも、作成申請する必要がある。2期以降は、これらの申請件数は激減するものと思われる。

2番目に多いのは、課題機能に関するものである。内訳は、教員による課題の出し方に関する問い合わせ15件、学生からの課題提出方法の問い合わせ11件である。

3番目に多いのは、学生登録に関するものである。コースへの学生登録申請16件の他、教員による登録の仕方や登録キーの問い合わせが含まれている。現在、Moodleは教務システムと完全に切り離されており、教員による履修学生の登録や設定作業が必要となっている。将来的には、教務システムとのデータ連携が望ましい。

「ログイン・パスワード」は、パスワード忘れやログインができなくなったといった問い合わせである。「リソース（ファイル・動画）」では、動画や音声ファイルに関する問い合わせが13件を占めていた。

講習会ではコース作成の基本を説明したうえで、課題機能や出欠機能といった問い合わせ件数が多いものを中心に説明するのが良いだろう。問い合わせの範囲が多岐にわたっているため、すでに用意されているマニュアルや説明動画の紹介も効果的であろう。

表3 メディア情報教育センター「Moodle」の内訳³

詳細分類	件数
アカウント作成申請・カテゴリ作成申請	150
課題機能	26
学生登録	25
出欠機能	17
ログイン・パスワード	16
リソース（ファイル・動画）	14
小テスト機能	12
コース作成・設定	11
メッセージ機能	5
サーバ（バージョンアップ希望・増強のための停止）	4
全般	4
フォーラム	4
コースへのアクセス方法	3
トピック設定	3
完了トラッキング	3
評定機能	1
プロフィール	1
ブラウザ	1
その他	1
合計	301

1.2.2 メディア情報教育センター「Google Classroom」の内訳

表4に、メディア情報教育センターへのGoogle Classroom関連の問い合わせ内容の内訳を示す。

「役割変更」は、Classroomを最初起動したときに「生徒」を選択してしまったため「教師」へ変更して欲しいという依頼である。「学生名表示」は、クラスに登録されている学生情報としてNUFS-IDしか表示されていないため、氏名を表示するようにして欲しいという要望である。「課題機能」、「テスト付きの課題（Google Form）」といった課題・テスト関連が多いことが分かる。この他、「Google アプリ一覧から消えた」、「Classroom上のリンクからMeetへ参

表4 メディア情報教育センター「Google Classroom」の内訳

詳細分類	件数
役割変更	38
学生名表示	21
課題機能	17
Google アプリ一覧から消えた	14
テスト付きの課題 (Google Form)	13
Classroom上のリンクからMeetへ参加できない	11
その他	9
資料機能	5
クラス作成	5
招待・参加	5
学生としてのアカウント希望	1
トピック	1
合計	140

加できない」といった不具合に関する問い合わせも多くなっている。

なお、Classroom上のMeetリンクに関する不具合については、最初の問い合わせが4月25日で、最後は5月29日となっている。この不具合についてはセンターサイトで公開しているFAQ⁴に記載されているものの、このFAQの掲載場所が分かりづらいのではないだろうか。「学生名表示」については、4月17日から6月29日まで問い合わせが行われている。現状ではFAQに記載されていないが、記載することで問い合わせが減る可能性がある。なお、FAQには2020年7月12日時点で4件しか掲載されていない。今後、FAQなどの情報提供方法の見直しが必要だろう。

講習会では、課題やテスト関連を中心に説明をするのが良いだろう。

1.2.3 メディア情報教育センター「Zoom」の内訳

表5に、メディア情報教育センターへのZoom関連の問い合わせ内容の内訳を示す。

「サイトライセンス」は、サイトライセンス契約アナウンス後の問い合わせ

表5 メディア情報教育センター「Zoom」の内訳

詳細分類	件数
サイトライセンス	39
有料アカウント希望	6
招待・参加	4
その他	4
画面共有	4
表示・音声障害	3
ブレイクアウトルーム	2
録画	2
ウェビナー	2
大学向け制限緩和に関して	2
マニュアルがあるか	1
バージョンアップした方が良いか	1
アカウント作成	1
合計	71

や、招待メール再送依頼である。「有料アカウント希望」は、それ以前の時期のものである。画像表示が上手くできない、音声聞こえないといった障害は3件であった。

Google Meetと比べると、使い方に関する問い合わせは少ないと言える。講習会での詳しい説明は不要であろう。

1.2.4 メディア情報教育センター「Google Meet」の内訳

表6に、メディア情報教育センターへのGoogle Meet関連の問い合わせ内容の内訳を示す。

最も多かったのは、招待の仕方に関する問い合わせや、参加ができないといったトラブルに関するものである。センターとしては、Googleカレンダーに登録して招待することを勧めており、このカレンダー登録方法に関する問い合わせも含まれている。2番目に多かったのは、画面共有に関する問い合わせである。画像表示が上手くできない、音声聞こえないといった障害は

表6 メディア情報教育センター「Google Meet」の内訳⁵

詳細分類	件数
招待・参加	20
画面共有	10
表示・音声障害	9
反応せず	6
ビュー	3
ブラウザ	2
学生名表示	2
録画	1
タブレットでの使用	1
インストール	1
全般	1
合計	56

9件であった。この他、反応しないという障害が6件あった。

講習会では、「招待・参加」、「画面共有」を中心に説明するのが良いだろう。

1.3 学科等の対応内容の分析

表7に、メディア情報教育センターを除いた学科等全体における問い合わせ内容の内訳を示す。「授業関連（機器やソフト以外）」が1番多くなっており、メディア情報教育センターの内訳（表2）と大きな違いがみられる。

「授業関連（機器やソフト以外）」の内訳を、表8と表9に示す。表8は学生からの問い合わせ分で、表9は教員からの問い合わせ分である。学生からの問い合わせが多くを占めていることが分かる。「授業参加方法」は、授業にどのような手段で参加すれば良いか分からない学生からの問い合わせである。シラバスに参加方法が書いていなかったり、教員からのメールでの連絡がなかったりといったことが原因である。ただし、学生が教員から届いていたメールを見落としていただけの場合もある。また、履修登録変更期間に登録した授業に関するものもある。「教員連絡方法」は、学生からの教員メール

表7 学科等の内訳

分類	件数
授業関連（機器やソフト以外）	107
自宅環境	48
Google Classroom	30
Google Meet	21
オンライン授業以外	21
Moodle	19
Zoom	14
パソコン・スマホ操作	14
オンライン授業全般	14
G Suite 関連	10
講習会	9
貸与パソコン	8
NUFS-ID 関連	7
LMS 全般・その他	3
オンライン会議システム全般	3
Office 関連	1
合計	329

アドレスを教えて欲しいという問い合わせや、教員にメールを送っても返信がないといった苦情などである。教員メールアドレスを教えて欲しい理由としては、授業参加方法が分からないためというものも含まれている。「授業進め方」には、主に資料・課題提示型授業に関する、授業の進め方が分からないといった問い合わせが含まれている。

教員から学生への連絡を早めに確実に行うことで、問い合わせを大幅に減らすことができるだろう。今回は、急にオンライン授業となったため、どのような手順で学生に連絡を取るべきか把握していなかった教員がいた可能性がある。また、履修登録変更期間に登録する学生への連絡は漏れやすいだろう。教員に授業開始までの手順に加え、履修者が確定するまでの手順も周知することが重要である。

表8 学科等の「授業関連（機器やソフト以外）」の内訳（学生分）

詳細分類	件数
授業参加方法	46
教員連絡方法	13
授業進め方	11
出欠	5
課題提出	5
履修登録	4
オンライン授業全般	4
授業コンテンツ	4
教科書	3
シラバス	3
合計	98

表9 学科等の「授業関連（機器やソフト以外）」の内訳（教員分）

詳細分類	件数
学生連絡方法	2
学内施設	2
授業進め方	2
シラバス	1
教科書	1
課題提出	1
合計	9

1.4 おわりに

第1部では、オンライン授業のサポートデスクにおける問い合わせ内容に関する集計結果と分析を示した。メディア情報教育センターへの問い合わせは、LMSやWeb会議システムに関するものが多く、学科等へは、授業の進め方に関するものが多いことが分かった。この結果から、LMSやWeb会議システムに関する講習会や情報提供、授業の進め方についての周知が重要と言える。

本調査結果を参考にして、2020年9月3日にMIDセンター主催のオンライ

ン研修会が行われた。この研修会では、2期から初めてオンライン授業を行う教員向けに、LMSやWeb会議システムの使い方や、コースへの学生の登録方法と連絡方法といった授業開始に向けた手順についても説明が行われた。この結果、今後は基本的な問い合わせが減ることを期待する。

情報提供に関しては、まだ十分とは言えない。ここでは、2点提言したい。

1つ目は、問い合わせ内容に対する対応結果の公表である。メディア情報教育センターのWebサイトでは、LMSやWeb会議システムの使い方に関する文書や動画が提供されている。しかし、今回の問い合わせ対応結果には有用な情報が含まれているにも関わらず、Webサイトで公開されているものはわずかである。問い合わせの対応を行うには、実際に同じ環境にして試してみたり、詳細な調査が必要であったり、時間がかかることもある。そのような作業の結果分かったことを共有して欲しい。これらの情報は学科等のサポートデスクにとっても有用なものだろう。また、これらの情報提供していくことで、問い合わせ件数の削減にもつながるだろう。

2つ目は情報の集約である。現状では、オンライン授業に関する部門が分かれており、情報がバラバラになっている。教務課、授業管轄部門、学長、新型コロナウイルス対策チーム、MIDセンターなどから連絡メールが送られ、それらの情報を後から確認することができない。情報を集約して公開するべきである。

最後に、オンライン授業に関する問い合わせに対応していただき、問い合わせリストを提供していただいたサポートデスク担当者の皆様にお礼を申し上げます。

【若山公威】

第2部 学生アンケート調査の集計と分析

第2部の目的は、MIDセンターが2020年7月14日から7月28日までの期間に名古屋外国語大学および名古屋外国語大学大学院の全学生を対象として実施した「オンライン授業に関する学生アンケート調査」の回答結果に基づき、名古屋外国語大学におけるオンライン授業の現状および問題点を明らかにす

ることである。ただし、学部生と大学院生では授業形態および学習環境など様々な点において異なることから、学部生による回答に限定した分析をおこなう。

名古屋外国語大学に在籍する学生数は4592人であるのに対して、本アンケート調査の有効回答数は3521人であり、回答率は約77%であった。このように、本調査にはその結果が信頼性を有するだけの十分な学生が参加している。また、後述のとおり、調査結果の信頼性を損なうような回答学生の極端な偏りは確認されていない。

アンケートは学生の入学年度、所属学科・専攻、および学習環境に関する3つの質問（問A～問C）と、より詳細な授業満足度などに関する9つの質問（問1～問9）から構成される。以下では、各質問について簡単に確認するが、詳細に関しては補足資料1を参照されたい。

2.1 基本情報

問A「学年（入学年度でお答えください。）」の回答結果から、下記の単純集計表が作成できる。この表から、回答学生3521人の入学年度が確認できる。2020年度入学生は1094人（31.07%）と最も高く、2017年度以前が676人（19.20%）と最も低い。各年度により入学者の募集定員などが異なることから、各学年の回答数およびその割合を単純に比較することはできないが、各学年の学生がおおよそ一定の割合で有効回答数を構成している。

表 10 入学年度別による回答者数の構成

	(単位：人)	(単位：%)
	度数	列比率
2017年度以前	676	19.20%
2018年度	756	21.47%
2019年度	995	28.26%
2020年度	1094	31.07%
総計	3521	100.00%

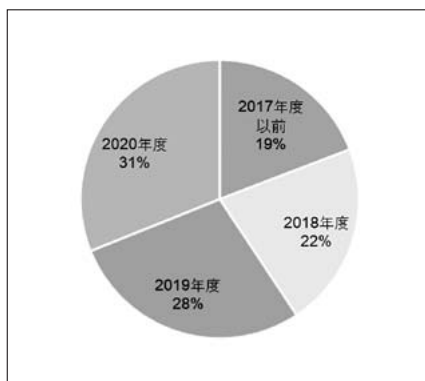


図2 入学年度別による回答者数の構成 (円グラフ)

問B「所属(学科、専攻)」の回答結果から、下記の単純集計表が作成できる。この表から、回答学生3521人の所属学科・専攻が確認できる。概ね募集定員数に比例するように各学科・専攻の学生が有効回答率を構成している。

表11 所属学科・専攻別による回答者数の構成

	(単位：人)	(単位：%)
	度数	列比率
英米語学科英米語専攻	662	18.80%
英米語学科英語コミュ専攻	407	11.56%
英語教育学科／英米語学科英語教育専攻	188	5.34%
フランス語学科	279	7.92%
中国語学科	188	5.34%
現代英語学科	343	9.74%
国際教養学科	371	10.54%
グローバルビジネス学科	327	9.29%
世界共生学科	253	7.19%
世界教養学科	332	9.43%
日本語学科／国際日本学科	171	4.86%
総計	3521	100.00%

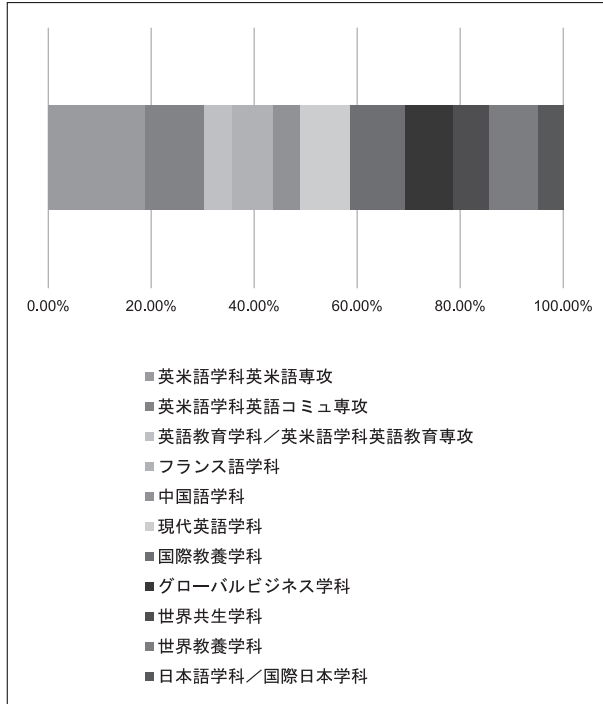


図3 所属学科・専攻別による回答者数の構成 (帯グラフ)

問C「あなたの現在の学習環境に問題がありますか。通信環境、自宅の生活騒音などを総合的に判断ください。」から、下記のクロス集計表が作成できる。これは、問Aと問Cの回答を用いたクロス集計表である。行比率表の最終行の「総計」から明らかなように、約76%の学生が「問題はない」または「ほとんど問題はない」と答えており、このことは大学の様々な支援による一定の成果と解釈される。一方で、約3%の学生が「大いに問題がある」と答えており、これらの学生に対して大学による追加的な支援が必要であると思われる。また各入学年度の回答を比較すると、上級生ほど「少し問題がある」または「大いに問題がある」と答えた学生の割合が低いことも確認できる。

表 12 学習環境の総合的評価

度数表

(単位：人)

	問題はない	ほとんど問題はない	少し問題がある	大いに問題がある	総計
2017年度以前	320	257	86	13	676
2018年度	266	329	141	20	756
2019年度	255	469	238	33	995
2020年度	268	523	264	39	1094
総計	1109	1578	729	105	3521

行比率表

(単位：%)

	問題はない	ほとんど問題はない	少し問題がある	大いに問題がある	総計
2017年度以前	47.34%	38.02%	12.72%	1.92%	100.00%
2018年度	35.19%	43.52%	18.65%	2.65%	100.00%
2019年度	25.63%	47.14%	23.92%	3.32%	100.00%
2020年度	24.50%	47.81%	24.13%	3.56%	100.00%
総計	31.50%	44.82%	20.70%	2.98%	100.00%

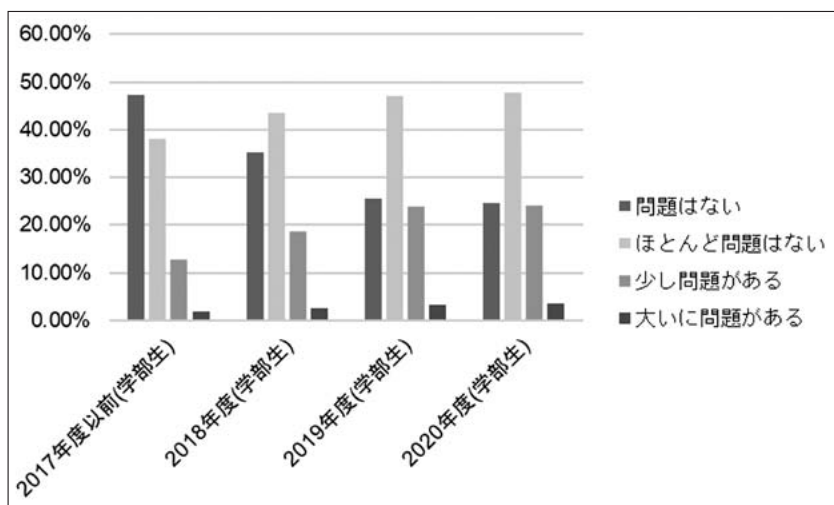


図 4 学習環境の総合的評価 (棒グラフ)

2.2 オンライン授業の満足度

問1「1期のオンライン授業について、全体としての「満足度」を授業方法別、授業系列別に評価して下さい。」(一部省略) から、下記の単純集計表が

作成できる。このうち、問1-1から問1-3までは各授業方法の満足度であり、問1-4から問1-7までは各授業系列の満足を表わしている。

問1-1はリアルタイム方式に対する授業満足であり、約16%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。また、問1-2はオンデマンド方式に対する授業満足であり、同じく約16%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。一方で、問1-3は資料・課題提示方式に対する授業満足であるが、約30%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。

問1-4は語学演習科目に対する授業満足であり、約19%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。また、問1-5は専門演習科目に対する授業満足であり、約12%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。問1-6はゼミナール科目に対する授業満足であり、約8%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。最後に、問1-7は講義科目に対する授業満足であり、約11%の回答学生が「不満」または「非常に不満」と答えている。

表 13 オンライン授業に対する満足度

度数表

	非常に満足	満足	ふつう	不満	非常に不満	履修なし	総計
問1-1	363	1197	1388	448	109	16	3521
問1-2	571	938	1149	435	143	285	3521
問1-3	368	745	1160	767	297	184	3521
問1-4	328	803	1411	522	158	299	3521
問1-5	297	792	1475	329	105	523	3521
問1-6	475	709	1111	214	65	947	3521
問1-7	323	774	1497	294	91	542	3521

行比率表

	非常に満足	満足	ふつう	不満	非常に不満	履修なし	総計
問1-1	10.31%	34.00%	39.42%	12.72%	3.10%	0.45%	100.00%
問1-2	16.22%	26.64%	32.63%	12.35%	4.06%	8.09%	100.00%
問1-3	10.45%	21.16%	32.95%	21.78%	8.44%	5.23%	100.00%
問1-4	9.32%	22.81%	40.07%	14.83%	4.49%	8.49%	100.00%
問1-5	8.44%	22.49%	41.89%	9.34%	2.98%	14.85%	100.00%
問1-6	13.49%	20.14%	31.55%	6.08%	1.85%	26.90%	100.00%
問1-7	9.17%	21.98%	42.52%	8.35%	2.58%	15.39%	100.00%

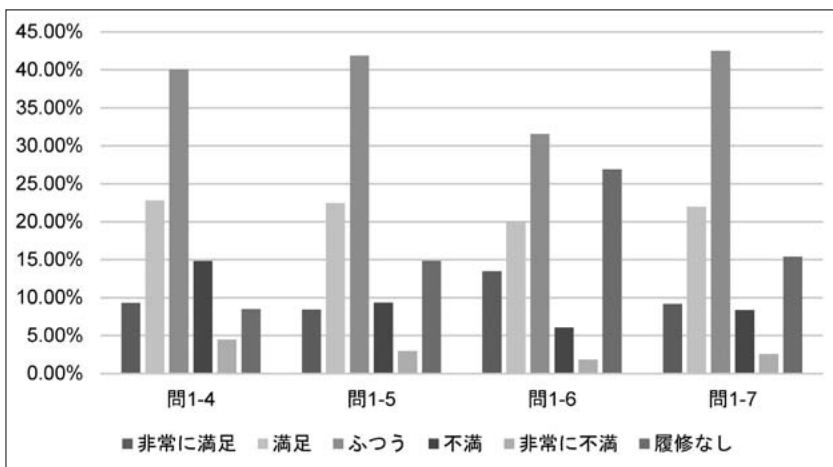
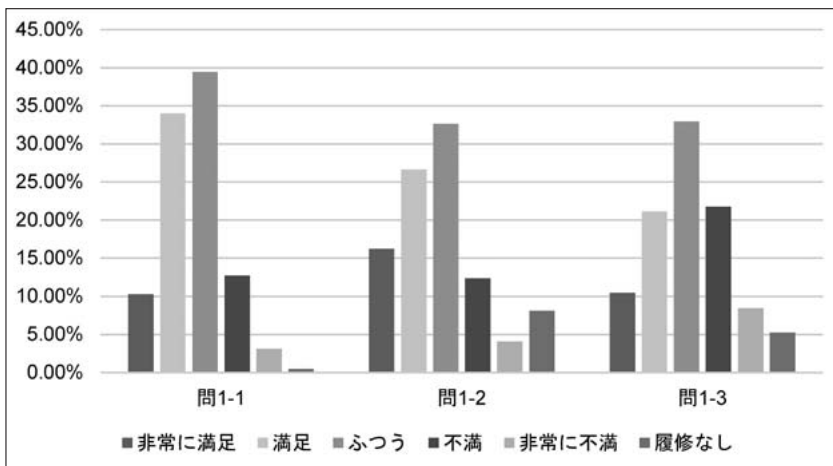


図5 オンライン授業に対する満足度（棒グラフ）

また、質問1の回答結果と学習環境に関する問Cの回答結果から、下記のクロス集計表が作成できる。上述のとおり、問1は7つの設問から構成されており、7つのクロス集計表が作成できるが、紙面の制約から問1-1のみを掲載する。また掲載していない6つのクロス集計表はいずれも下記の表と同じ傾向を示している。

下記の表から、学習環境が授業満足度に大きな影響を与えていることが確

表 14 学習環境別のオンライン授業の感想に対する満足度

度数表

	非常に満足	満足	ふつう	不満	非常に不満	履修なし	総計
問題はない	226	435	344	77	20	7	1109
ほとんど問題はない	109	595	681	162	25	6	1578
少し問題がある	27	161	342	170	27	2	729
大いに問題がある	1	6	21	39	37	1	105
総計	363	1197	1388	448	109	16	3521

行比率表

	非常に満足	満足	ふつう	不満	非常に不満	履修なし	総計
問題はない	20.4%	39.2%	31.0%	6.9%	1.8%	0.6%	100.0%
ほとんど問題はない	6.9%	37.7%	43.2%	10.3%	1.6%	0.4%	100.0%
少し問題がある	3.7%	22.1%	46.9%	23.3%	3.7%	0.3%	100.0%
大いに問題がある	1.0%	5.7%	20.0%	37.1%	35.2%	1.0%	100.0%
総計	10.3%	34.0%	39.4%	12.7%	3.1%	0.5%	100.0%

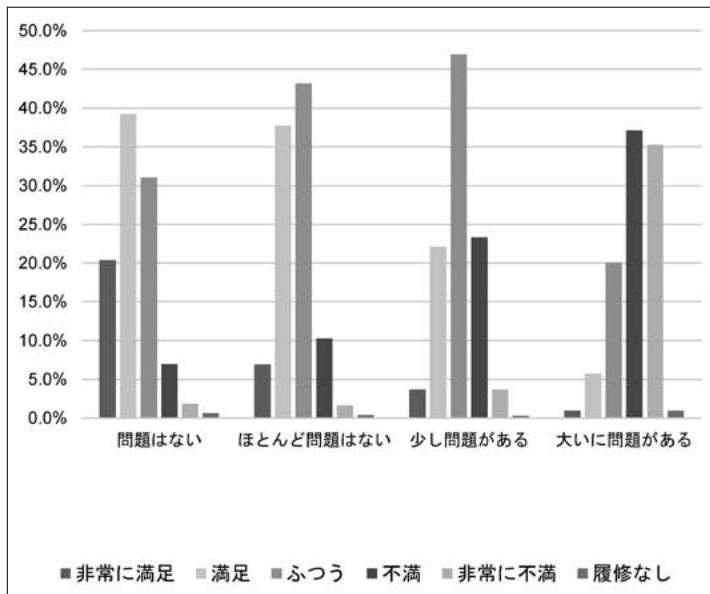


図 6 学習環境別のオンライン授業に対する満足度 (棒グラフ)

認できる。学習環境に「問題がない」と回答した学生のうち、約8%のみが「不満」または「非常に不満」と答えてる。それに対して、学習環境に「大いに問題がある」と回答した学生のうち、72%が「不満」または「非常に不満」と答えている。この傾向は問1-2から問1-7までにおいても同様であり、学習環境の改善により、学生の満足度を高められうことを示唆する。

2.3 授業内容・運営

問2「あなたが受講しているオンライン授業では、小テストや課題、意見交換などを通した理解度の確認がどの程度実施されていますか。」(一部省略)から、表15のクロス集計表が作成できる。これは、問2の回答結果と問Bの回答結果を用いたクロス集計表である。日本語学科／国際日本語学科では、「ほとんどない」または「一部の授業」と答えた学生の割合はわずかに約5%であり、また英語教育学科／英米語学科英語教育専攻では同割合が約12%である。一方で、グローバルビジネス学科では、同割合が約22%であり、世界共生学科でも同割合が約17%である。このように、授業の理解度の確認に関して学科間での差が大きくなっている。20%の学生が履修している全授業を通

表 15 学科別における理解度の確認

度数表

	すべての授業	ほとんどの授業	半数程度の授業	一部の授業	ほとんどない	その他	総計
英米語学科英米語専攻	80	317	154	95	12	4	662
英米語学科英語コミュ専攻	62	207	83	47	8	0	407
英語教育学科／英米語学科英語教育専攻	12	106	45	21	2	2	188
フランス語学科	35	141	66	30	5	2	279
中国語学科	26	100	34	20	8	0	188
現代英語学科	40	148	102	42	11	0	343
国際教養学科	45	169	101	46	8	2	371
グローバルビジネス学科	37	140	78	52	19	1	327
世界共生学科	25	130	57	27	14	0	253
世界教養学科	44	162	76	42	7	1	332
日本語学科／国際日本学科	29	89	44	9	0	0	171
総計	435	1709	840	431	94	12	3521

行比率表

	すべての授業	ほとんどの授業	半数程度の授業	一部の授業	ほとんどない	その他	総計
英米語学科英米語専攻	12.08%	47.89%	23.26%	14.35%	1.81%	0.60%	100.00%
英米語学科英語コミュ専攻	15.23%	50.86%	20.39%	11.55%	1.97%	0.00%	100.00%
英語教育学科／英米語学科英語教育専攻	6.38%	56.38%	23.94%	11.17%	1.06%	1.06%	100.00%
フランス語学科	12.54%	50.54%	23.66%	10.75%	1.79%	0.72%	100.00%
中国語学科	13.83%	53.19%	18.09%	10.64%	4.26%	0.00%	100.00%
現代英語学科	11.66%	43.15%	29.74%	12.24%	3.21%	0.00%	100.00%
国際教養学科	12.13%	45.55%	27.22%	12.40%	2.16%	0.54%	100.00%
グローバルビジネス学科	11.31%	42.81%	23.85%	15.90%	5.81%	0.31%	100.00%
世界共生学科	9.88%	51.38%	22.53%	10.67%	5.53%	0.00%	100.00%
世界教養学科	13.25%	48.80%	22.89%	12.65%	2.11%	0.30%	100.00%
日本語学科／国際日本学科	16.96%	52.05%	25.73%	5.26%	0.00%	0.00%	100.00%
総計	12.35%	48.54%	23.86%	12.24%	2.67%	0.34%	100.00%

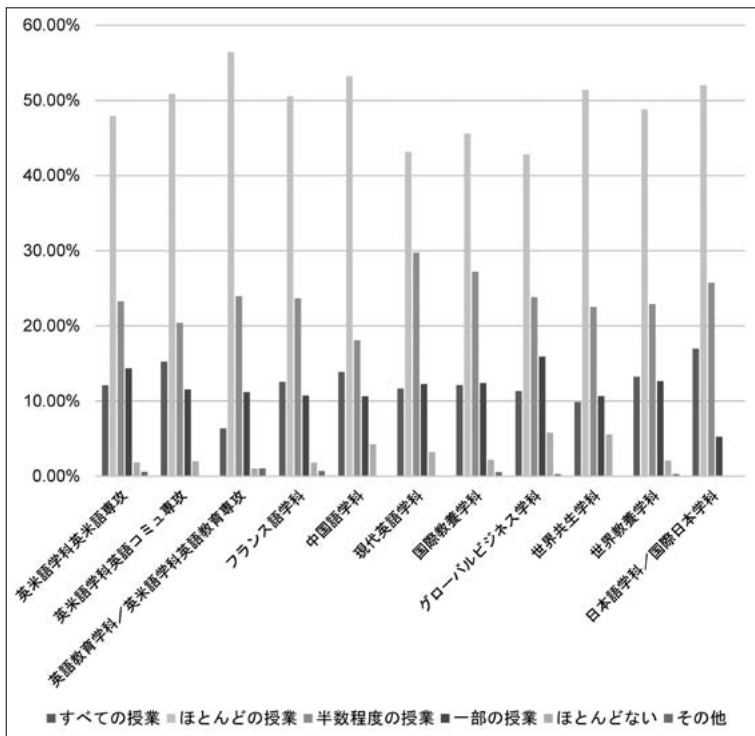


図7 学科別における理解度の確認（棒グラフ）

じて双方向性が「ほとんどない」あるいは「一部の授業」に留まるという回答は現状の問題点を明らかにしている。この結果は4月11日に教務課から出された「オンライン授業導入にともなうシラバス追記のお願い」における理解度の確認を目的とした双方向性が実現されているとは言えず、オンライン教育における質の保証が担保されていない可能性が高い。

問3「あなたが受講しているオンライン授業では授業内容などに関する疑問に対して担当教員からの適切なサポートが十分にありましたか。」(一部省略)から、下記のクロス集計表が作成できる。これは、問3の回答と問Bの回答を用いたクロス集計表である。日本語学科/国際日本語学科では、「ほとんどの授業でサポートがない、または全くない」あるいは「サポートがある授業は少ない」と答えた学生の割合はわずかに約14%であり、また英米語学科英語コミュ専攻では同割合が約19%である。一方で、グローバルビジネス学科では、同割合が約30%であり、英語教育学科/英米語学科英語教育専攻でも同割合が約30%である。このように、授業内容に関する教員のサポートに関して学科間での開きが著しく大きくなっている。30%の学生が履修している全授業を通じて教員からのサポートが「ほとんどの授業でサポートがな

表 16 各学科別における教員によるサポート

度数表

	全ての授業でサポートがある	多くの授業でサポートがある	サポートがある授業は少ない	ほとんどの授業でサポートがない、または全くない	総計
英米語学科英米語専攻	97	418	124	23	662
英米語学科英語コミュ専攻	67	261	68	11	407
英語教育学科/英米語学科英語教育専攻	24	108	53	3	188
フランス語学科	49	176	44	10	279
中国語学科	37	110	40	1	188
現代英語学科	44	212	83	4	343
国際教養学科	46	239	79	7	371
グローバルビジネス学科	36	192	83	16	327
世界共生学科	42	162	41	8	253
世界教養学科	42	215	68	7	332
日本語学科/国際日本学科	28	119	24	0	171
総計	512	2212	707	90	3521

行比率表

	全ての授業でサポートがある	多くの授業でサポートがある	サポートがある授業は少ない	ほとんどの授業でサポートがない、または全くない	総計
英米語学科英米語専攻	14.65%	63.14%	18.73%	3.47%	100.00%
英米語学科英語コミュ専攻	16.46%	64.13%	16.71%	2.70%	100.00%
英語教育学科／英米語学科英語教育専攻	12.77%	57.45%	28.19%	1.60%	100.00%
フランス語学科	17.56%	63.08%	15.77%	3.58%	100.00%
中国語学科	19.68%	58.51%	21.28%	0.53%	100.00%
現代英語学科	12.83%	61.81%	24.20%	1.17%	100.00%
国際教養学科	12.40%	64.42%	21.29%	1.89%	100.00%
グローバルビジネス学科	11.01%	58.72%	25.38%	4.89%	100.00%
世界共生学科	16.60%	64.03%	16.21%	3.16%	100.00%
世界教養学科	12.65%	64.76%	20.48%	2.11%	100.00%
日本語学科／国際日本語科	16.37%	69.59%	14.04%	0.00%	100.00%
総計	14.54%	62.82%	20.08%	2.56%	100.00%

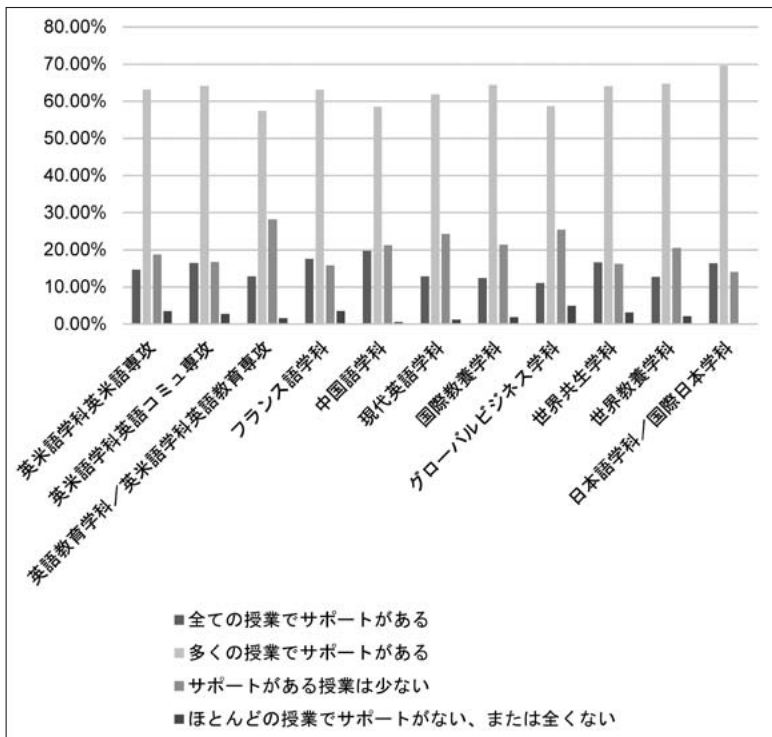


図8 各学科別における教員によるサポート（棒グラフ）

い、または全くない」あるいは「サポートがある授業は少ない」に留まるといふ回答は現状の問題点を明らかにしている。問2の結果と同様に、この結果はオンライン教育における質の保証が担保されていない可能性が高いことを示唆する。

2.4 オンライン授業の利点・欠点

問4「オンライン授業で困っていることについて、当てはまることがあれば選択して下さい。(複数回答可)」(一部省略)の回答結果から、表17のデータバーを含めたクロス集計表が作成できる。本表は問4の回答と問Aの回答を用いたクロス集計表である。「課題が多い」が最も多く、「集中力が続かない」、「友達と一緒に学べず孤独感を感じる」、「先生に質問しにくい」の順に回答が多い。約68%の回答者が「課題が多い」と答えており、学生は対面授業の場合のようには課題をこなせないようである。また、「集中力が続かない」が約45%、「友達と一緒に学べず孤独感を感じる」も同様に約45%、「先生に質問しにくい」が44%であり、いずれも約半数の回答学生がこれらのことで困っている。「授業で使用されるシステムの使い方がよく分からない」および「授業の教材がわかりにくい」はそれぞれ約13%および約16%であり、教職員の対応が遠隔授業の問題を一定程度解決していると思われる。回答学生のうち約33%が「ネット環境に不具合がある」と答えており、このことは大学からの支援が必要であることを示唆する。

表17 オンライン授業のデメリット

	先生に質問がしにくい	教員からのフィードバックがない	集中力が続かない	授業で使用されるシステムの使い方がよく分からない	コンピュータの操作に慣れていない	ネット環境に不具合がある	課題が多い	授業の教材がわかりにくい	学習のペースがつかみにくい	友達と一緒に学べず孤独感を感じる	総計
2017年度以前(学部生)	221	167	251	50	70	170	187	81	178	233	1608
2018年度(学部生)	319	183	335	81	134	221	500	125	261	328	2515
2019年度(学部生)	441	312	465	147	268	359	825	170	404	423	3820
2020年度(学部生)	584	316	545	187	433	424	832	207	526	593	4681
総計	1565	978	1596	465	905	1174	2354	583	1369	1575	12004

	先生に質問がしにくい	教員からのフィードバックがない	集中力が続かない	授業で使用されるシステムの使い方がよく分からない	コンピュータの操作に慣れていない	ネット環境に不具合がある	課題が多い	授業の教材がわかりにくい	学習のペースがつかみにくい	友達と一緒に学べず孤独感を感じる
2017年度以前(学部生)	13.74%	10.39%	15.61%	3.11%	4.35%	10.57%	11.83%	5.04%	11.67%	14.69%
2018年度(学部生)	12.68%	7.28%	13.32%	3.22%	5.33%	8.79%	21.07%	4.97%	10.35%	12.96%
2019年度(学部生)	11.54%	8.17%	12.17%	3.85%	7.02%	9.40%	21.65%	4.61%	10.55%	11.07%
2020年度(学部生)	12.53%	6.78%	11.69%	4.01%	9.29%	9.10%	18.28%	4.31%	11.29%	12.72%
総計	44.35%	27.71%	45.23%	13.18%	25.64%	33.27%	67.84%	16.52%	38.79%	44.63%

問5「オンライン授業で良かったと思うことについて、選択して下さい。(複数回答可)」(一部省略)の回答結果から、下記のグラフが作成できる。「移動が不要で効率が良い」が最も多く、「自宅で学習できる」、「自分のペースで学習できる」、「コンピュータやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる」の順に多い。約80%の回答学生が「移動が不要で効率が良い」と答えており、愛知県のみでなく、岐阜県、三重県などから通学する学生が多い本学の場合には遠隔授業によるメリットも大きいと考えられる。また、「自宅で学習できる」が約65%、「自分のペースで学習できる」が約45%、「コンピュータやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる」が36%である。回答学生の約12%のみが「教室より集中出来る」と答えており、移動が不要で効率が良く、自分のペースで学習できるが、教室ほど集中して学習で

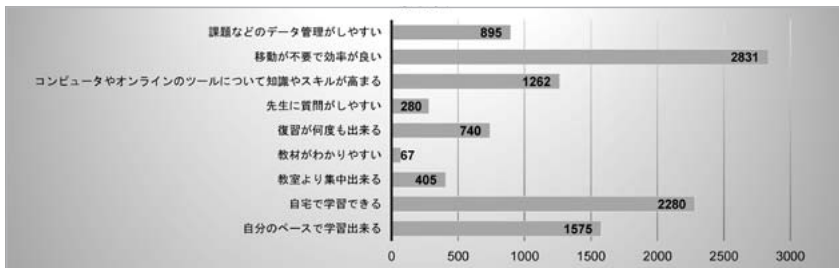


図9 (A) オンライン授業で良かったこと

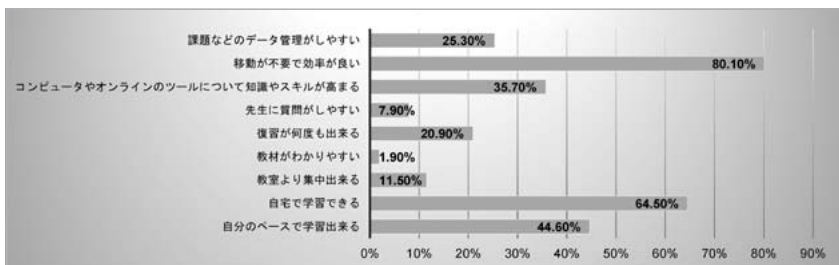


図9 (B) オンライン授業のメリット (割合)

きていないことがわかる。また、「教材が分かりやすい」が約2%であり、「先生に質問がしやすい」が8%である。このことは、これらの点について対面授業以上のメリットが遠隔授業にないことが確認できる。

問6「対面授業とオンライン授業で、授業内容の学習効果は等しいと思いますか。」の回答結果から、下記のクロス集計表が作成できる。下記の表は、問5の回答と問Cの回答に基づくクロス集計表である。行比率表から明らかのように、「対面の方が学習効果が非常に高い」と答えた学生の割合は、学習環境が「問題ない」と答えた学生において約18%と最も低く、学習環境が「大いに問題がある」と答えた学生では約71%と最も高い。この結果は、遠隔授業の学習環境がオンライン授業の学習効果に大きな影響を与えることを示唆する。

表 18 オンライン授業の学習効果

度数表

	対面の方が 学習効果が 非常に高い	対面の方が 学習効果が 高い	両方同じくらい	オンラインの 方が学習効果 が高い	オンラインの 方が学習効果 が非常に高い	授業により 異なる	総計
問題はない	205	297	216	92	64	235	1109
ほとんど問題はない	337	549	212	86	29	365	1578
少し問題がある	250	225	65	30	8	151	729
大いに問題がある	75	11	1	2	1	15	105
総計	867	1082	494	210	102	766	3521

行比率表

	対面の方が 学習効果が 非常に高い	対面の方が 学習効果が 高い	両方同じくらい	オンラインの 方が学習効果 が高い	オンラインの 方が学習効果 が非常に高い	授業により 異なる	総計
問題はない	18.49%	26.78%	19.48%	8.30%	5.77%	21.19%	100.00%
ほとんど問題はない	21.36%	34.79%	13.43%	5.45%	1.84%	23.13%	100.00%
少し問題がある	34.29%	30.86%	8.92%	4.12%	1.10%	20.71%	100.00%
大いに問題がある	71.43%	10.48%	0.95%	1.90%	0.95%	14.29%	100.00%
総計	24.62%	30.73%	14.03%	5.96%	2.90%	21.76%	100.00%

行比率表（累積相対度数）

	対面の方が 学習効果が 非常に高い	対面の方が 学習効果が 高い	両方同じくらい	オンラインの 方が学習効果 が高い	オンラインの 方が学習効果 が非常に高い	授業により 異なる
問題はない	18.49%	45.27%	64.74%	73.04%	78.81%	100.00%
ほとんど問題はない	21.36%	56.15%	69.58%	75.03%	76.87%	100.00%
少し問題がある	34.29%	65.16%	74.07%	78.19%	79.29%	100.00%
大いに問題がある	71.43%	81.90%	82.86%	84.76%	85.71%	100.00%
総計	24.62%	55.35%	69.38%	75.35%	78.24%	100.00%

表 19 オンライン授業の学習効果（入学年度別）

行比率表（2019年度以前入学学生）

	対面の方が 学習効果が 非常に高い	対面の方が 学習効果が 高い	両方同じくらい	オンラインの 方が学習効果 が高い	オンラインの 方が学習効果 が非常に高い	授業により 異なる	総計
問題はない	18.07%	24.61%	20.45%	10.23%	6.30%	20.33%	100.00%
ほとんど問題はない	20.00%	33.18%	15.83%	6.16%	1.80%	23.03%	100.00%
少し問題がある	35.70%	28.17%	9.25%	3.87%	1.72%	21.29%	100.00%
大いに問題がある	78.79%	6.06%	1.52%	1.52%	0.00%	12.12%	100.00%
総計	23.94%	28.51%	15.78%	7.00%	3.30%	21.47%	100.00%

行比率表（2020年度入学学生）

	対面の方が 学習効果が 非常に高い	対面の方が 学習効果が 高い	両方同じくらい	オンラインの 方が学習効果 が高い	オンラインの 方が学習効果 が非常に高い	授業により 異なる	総計
問題はない	19.78%	33.58%	16.42%	2.24%	4.10%	23.88%	100.00%
ほとんど問題はない	24.09%	38.05%	8.60%	4.02%	1.91%	23.33%	100.00%
少し問題がある	31.82%	35.61%	8.33%	4.55%	0.00%	19.70%	100.00%
大いに問題がある	58.97%	17.95%	0.00%	2.56%	2.56%	17.95%	100.00%
総計	26.14%	35.65%	10.15%	3.66%	2.01%	22.39%	100.00%

さらに、行比率表（累積相対度数）はより顕著な傾向を示している。行比率表（累積相対度数）は行比率を「対面の方が学習効果が非常に高い」から順に足し合わせたものであり、累積相対度数と同様に解釈できる。少なくとも「対面の方が学習効果が高い」と答えた回答学生の割合は、学習環境が「問題ない」と答えた学生において約45%であり、学習環境が「ほとんど問題ない」と答えた学生において約56%であり、学習環境が「少し問題がある」と答えた学生において約65%であり、さらに学習環境が「大いに問題がある」と答えた学生において約82%である。この結果は学習効果が学習環境によって大きな影響を受けており、学習環境に問題がない場合にはオンラインに対する対面の優位性は示されない。

最後に、1年生と2年生以上の学生の相違を確認するために、表18の回答を2020年度入学学生とそれ以外に分けたクロス集計表が表19である。2019年度以前入学学生に比べて、2020年度入学学生の方が「対面の方が学習効果が非常に高い」または「対面の方が学習効果が高い」と答えた学生の割合が高いことが確認できる。さらに、2019年度以前入学学生の方が、学習環境によりオンライン授業の学習効果が大きく異なることが確認できる。

【眞鍋和弘】

問7「問6に対する回答ついて、その理由を記述して下さい。」

問6は、対面授業とオンライン授業のどちらが学習効果が高いと考えるか、選択肢により問うものである。そこで問7では、問6の回答理由を自由記述により求めた。

アンケートの総回答件数3521のうち、2930（約83.2%）の記述があった。

オンラインの方が効果が高いと考える学生がもともと対面派より少ないが、理由の記述率は高く、利点を明確に言葉にできている。20生の中には、対面を経験していないので、比較できないとして「授業による」と回答した学生がいた。理由の記述率を表20に示す。

表20 対面授業とオンライン授業の学習効果に関する理由の記述者数

問6の回答	理由の記述者数	記述率(%)※
オンラインの方が効果が非常に高	94	92.2
オンラインの方が効果が高い	190	90.0
同じ	351	71.1
対面の方が効果が高い	929	85.7
対面の方が効果が非常に高い	752	86.2
授業による	614	80.2
記述者数合計	2930	83.2

※問6の解答者数に対して、問7の理由を記述した割合を示す

次に、記述内容を端的な言葉でまとめて列挙する。太字は回答数が複数あるものを示す。

①「オンラインの方が効果が高い」と考える理由

移動時間の無駄がない、効率よく使える（予復習、就活、資格学習、自分のやりたいことが可能）／集中できる、周囲に気を遣う必要がない、ストレスがない、マイペースで学習できる／後で何度でも資料（場合によっては講義）を見返すことができる／対面の時よりも発言しやすい、グループディスカッション、教員とのコミュニケーションが増えた／一人で受講しなければならないので対面時よりも真剣に取り組むようになった／課題が多いことで前よりも学習するようになった／データでの資料や課題管理が用意、提出トラブル削減／

②「対面の方が効果が高い」と考える理由

一方通行にならず質問しやすい／クラス内のコミュニケーションがとりやすい、オンラインは距離感がある／質問の回答がリアルタイム、メールによる双方向性は質問などの解決が遅れる／語学の発音は対面の方が掴みやすい／オンラインでは授業の質と課題の大変さが釣り合っていない、授業の質・量が減って学費が合わない、進捗度・内容・レベルなどが対面に比べ下がっていると感じる／集中できない／自宅の環境が整っていない／資料・課題提示のみの授業では学んだ気がしない／同じ空間で切磋琢磨することで成果がある／理解できているかどうかわかり辛い／大学に行くこと自体でモチベーションが上がる。周りの学生から刺激を受けられる／オンラインでは自分に甘くなる、教員が学生たちの状況に目が行き届かない／初めてなのでオンライン授業に対する違和感がぬぐえない／語学の授業が多いがオンラインでは言語を発する機会が減る

③「同じ」と考える理由

受講してみて差がなかった、内容は同じ／自分次第である／教員次第。一生懸命工夫してくれる先生がいる／一長一短ある／

④「授業による」と考える理由

教員によって異なる／講義科目など話をきいてメモをとる授業はオンラインで十分だが、演習科目やゼミなどはその場の応答が重要／語学系、特に会話やネイティブの教員の場合は対面がよい。通信が途切れないように／授業方法による。スライドによる説明は直接が良いが、動画による解説があればオンラインで十分／内容が少なめだと理解度が上がる／

以上をまとめると、次のことが言える：

- ・対面授業、オンライン授業どちらも一長一短あることは概ね理解されている。
- ・教員や授業内容、受講する学生の資質により、良し悪しは影響される。
- ・教員や学生の資質以外の範囲として、語学系、特に会話やリスニングでは通信の影響を受けやすいので、対面授業が望ましいという意見が多い。
- ・教員が授業の工夫やフィードバックを怠り、そのような授業しか受講し

ていない学生は、オンライン授業に対する評価が全般に下がる。逆にこの1期に効果があると感じられた授業を複数受けた学生は、オンライン授業の効果を認めている。

教員、学生双方の取り組み次第で、授業は変わるので、対面であろうとオンラインであろうと改善を重ねることで効果を上げることは可能である。回答をみると、この1期に受講した（体験した）オンライン授業の影響は大きい。今後、双方の良い点をさらに引き出してハイブリッド式で進める方向性が考えられるが、2期の授業でオンライン授業の評価を上げる工夫をすべきである。

【山本恵】

2.5 将来的なオンライン授業の実施

問8「オンライン授業に関して大学に行なってほしい講習はありますか（複数回答可）」の回答結果から、図10のグラフが作成できる。「Officeソフトウェア（Word、Excel、PowerPointなど）」が最も多く、「eラーニングプラットフォーム（Moodle、Classroomなど）」、「web会議ツール（Meet、Zoomなど）」と続く。「Officeソフトウェア（Word、Excel、PowerPointなど）」は約33%の回答学生が希望しており、「eラーニングプラットフォーム（Moodle、Classroomなど）」および「web会議ツール（Meet、Zoomなど）」はそれぞれ約25%、約24%の回答学生が希望している。特に、1年生は前期に「コンピューターテラシー」においてOFFICEソフトウェアを学習している段階であり、

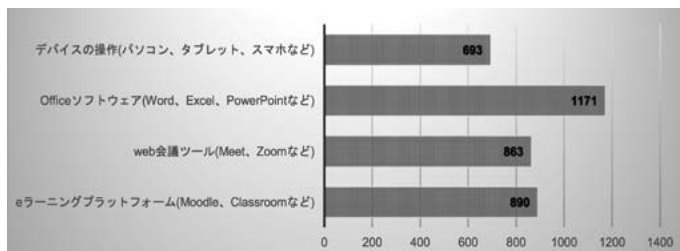


図10 (A) 大学に求める講習

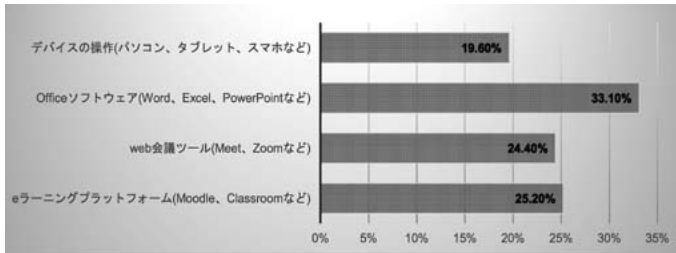


図10 (B) 大学に求める講習(割合)

要望は大きいと考えられる。また、2年生以上であっても使い慣れないソフトウェアに関しては改めて講習を必要としていると考えられる。

【眞鍋和弘】

問9 大学に改善を望むこと

「今後のコロナウィルスの感染状況によっては、オンライン授業が継続される可能性があります。1期の状況を踏まえ、皆さんが改善を望むことがあれば自由に記述して下さい。」

上記問いに対する自由記述文について、無回答および「なし」「特になし」などを除いた結果、2376件の有効回答を得た。このうち大学院生の回答5件を除き、2371件を分析対象とした。基本統計量は表21のとおりである。

表21 問9記述統計量

問9自由記述文に回答を入力した学部生の割合	67.2%
文の総数	6,383文
総抽出語数、異なり語数	147,671語、4,817語
記述した学生一人当たりの平均単語数	約62.3語

図11は出現頻度の高い形容動詞20語を抜粋し、頻度を縦軸にグラフ化したものである。多くの学生が、オンライン授業に対して不安を持っていることがわかる。

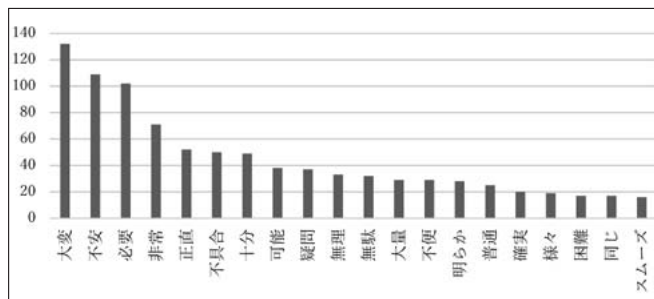


図 11 出現頻度の高い形容動詞 (20語)

図12は、出現頻度の高い順に名詞30語を抽出したものである。改善要求については授業内容、授業方法、ツールの関連、学費の問題など、多岐にわたることがわかる。

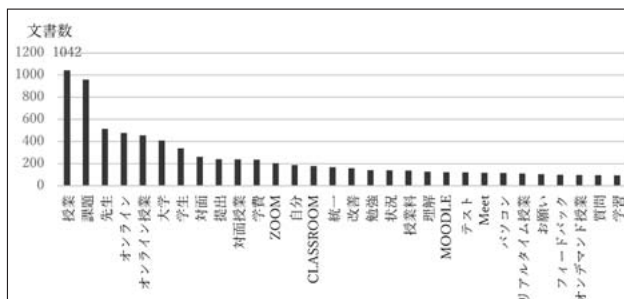


図 12 出現頻度の高い名詞 (30語)

さらに出現頻度の高い語と共起する語の結びつきから、学生の改善要求を、共起ネットワーク図で示すと図13のようになる。円の大きさが出現頻度の高さを、線の太さが結びつきの強さを示す。

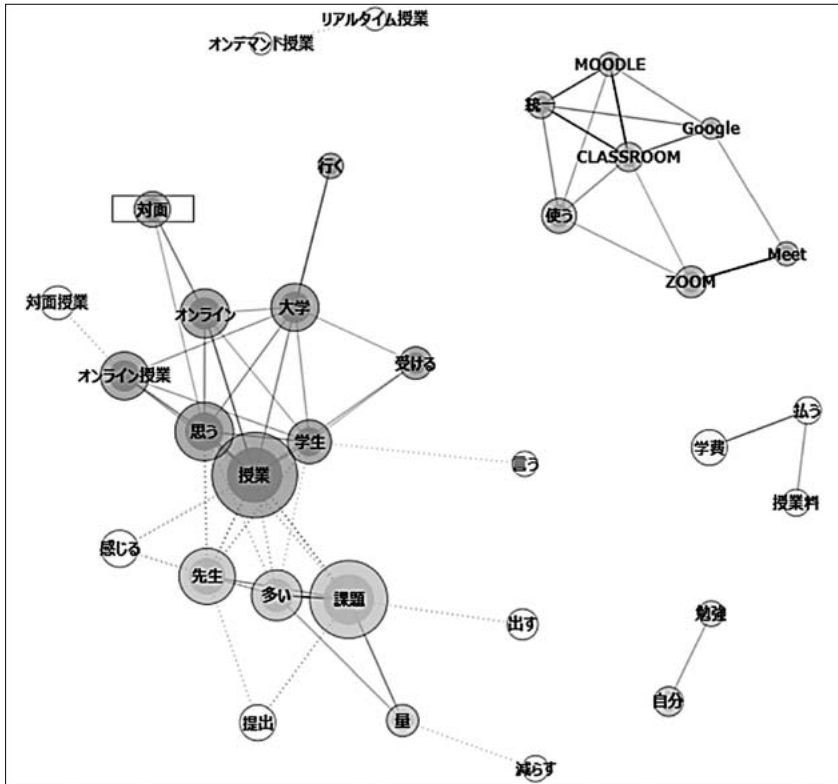


図13 出現頻度の高い名詞・動詞・形容詞の共起ネットワーク

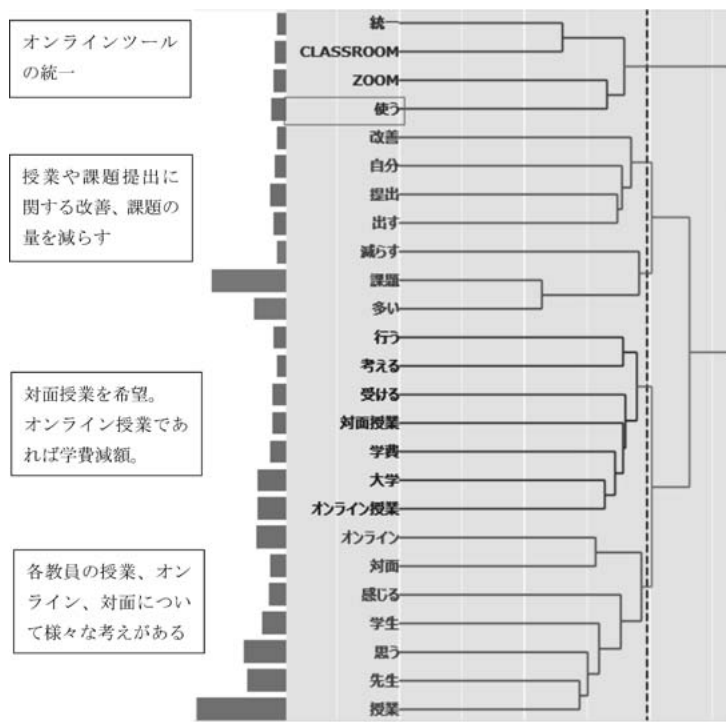


図14 クラスタ分析結果
(全記述数の約5%にあたる130件以上で出現した単語を抽出して分類)

さらにこれらをまとめるために、クラスタ分析により、改善要求の内容を分類したところ、図14のようになった。このうち抽出語の「改善」から「多い」までは、課題に関する改善要求に含めることができる。したがって最終的に学生の改善要求としては、次の4つであることがわかる。

- 1) オンライン授業で利用するツールを統一してほしい
- 2) 授業や課題提出に関する改善を希望する。特に課題の量を減らす。
- 3) 対面授業を希望する。オンライン授業のままであれば学費を減額すべきである。
- 4) 個別授業に対する様々な改善要求など

【山本恵】

第3部 教員アンケート調査の集計と分析

第3部では、2020年度1期におけるオンライン授業の実施状況をふまえ、オンライン授業の利点・欠点、改善点等を明らかにすることを目的に、MIDセンターが7月30日から8月4日までの期間に名古屋外国語大学の全教員を対象として実施した、「オンライン授業に関する教員向けアンケート調査」の回答結果を報告する。

本アンケートは、日本語版と英語版の2種類を用意し、日本語版は337名、英語版は106名、合計483名の教員に回答を依頼した。その結果、本アンケート調査の有効回答数は日本語版が216名（回答率64%）、英語版が64名（回答率60%）であり、合計すると280名（回答率58%）から回答を得ることができた。このうち、アンケートへの協力を依頼した教員のうち1期に授業を受け持っていた教員数は437名であり、その数を元にするると回収率は64%であった。

アンケートは、雇用形態や所属に関する質問の他、オンライン全般について（セクションⅡ）、授業内容・運営について（セクションⅢ）、学習効果について（セクションⅣ）、オンライン授業の利点・欠点（セクションⅤ）、将来的なオンライン授業の実施について（セクションⅥ）、の計16問の項目により構成されている（補足資料2参照）。本章を通じて、各質問の回答結果について報告する。

3.1 基本情報

問A「雇用形態」についての回答結果によると、回答者280名の雇用形態は、98名が常勤、182名が非常勤であり、比率では常勤が35%、非常勤が65%であった（表22参照）。名古屋外国語大学の全教員のうち専任講師が31%（157名）、非常勤講師が69%（343名）であることと照らし合わせて考えると、回答で得られた比率は、母集団の特徴が反映されていると言える。

表22 回答者の雇用形態

	日本語版	英語版	合計 (%)
常勤	64	34	98 (35%)
非常勤	152	30	182 (65%)

問B「所属」の項目については、常勤の教員のみ回答を依頼した⁶。複数の学部にも所属している場合は、より多くの授業を受け持っている学科を選択するよう求めた。表23は、回答者の所属学科の内訳を示している。

表23 所属学科の内訳

所属学科	人数	比率
英米語学科英米語専攻	27	17%
英米語学科英語コミュニケーション専攻	7	5%
英米語学科英語教育専攻／英語教育学科	4	3%
フランス語学科	9	6%
中国語学科	11	7%
現代英語学科	16	10%
グローバルビジネス学科	13	8%
国際教養学科	17	11%
世界共生学科	5	3%
世界教養学科	12	8%
国際日本学科／日本語学科	8	5%
インスティテュート	6	4%
その他	20	13%
総計	155	100%

3.2 オンライン授業全般について

表24は、問1「今学期オンライン授業を実施した総合的なご感想についてお答えください。」に対する回答を集計したものである。また、図15はその集計結果を円グラフで示している。結果、9%の教員が「あまり良くなかった」または「良くなかった」と回答しているのに対し、67%の教員が「良かった」または「まあまあ良かった」と回答していることから、2020年度1期のオンライン授業実施に対しては、概ね好意的に受け止めている教員が多いと言える。

表24 オンライン授業実施の総合的な感想

	回答数	比率
良かった	59	21%
まあまあ良かった	128	46%
どちらとも言えない	68	24%
あまり良くなかった	20	7%
よくなかった	5	2%
総計	280	100%

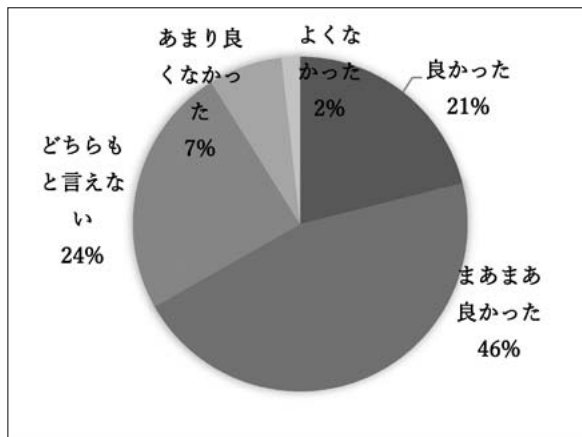


図15 オンライン授業実施の総合的な感想（円グラフ）

問2「今学期以前のオンライン授業実施のご経験についてお答えください。」という項目について、「今学期が初めて」と答えた教員が93%（260名）、「以前にもオンライン授業を受け持ったことがある」と答えた教員が7%（20名）であった（表25参照）。問1の結果と合わせると、ほとんどの教員にとって今

表25 オンライン授業の経験

	回答数	比率
今学期が初めて	260	93%
以前にもオンライン授業を受け持ったことがある	20	7%

学期は初めてのオンライン授業であったにも関わらず、1期を終えた時点で総合的に好意的な感想を持っていることがわかった。これは、大学の様々な支援・情報提供、さらには教員と学生双方の努力によるものと推測することができる。

問3「オンライン授業全般でお困りのことについて、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)」の項目に対する回答を集計したものが、表26である。また、図16は集計結果を棒グラフにまとめたものである。この結果をみると、選択肢の中で群を抜いて、「学生の通信環境」に対して困っている教員が多い(63%)ことがわかる。その次に、「学生の授業環境(30%)」「ツールの不安定さ(28%)」、「学生のツールに関する知識不足(27%)」が並んでいる。2020年度1期には既に学生向けの通信環境対策として一律5万円の支給や、パソコンの貸与など様々な対策がなされているが、それでも教員はまだ学生の受講環境について一定の不安を持っているようである。今後も、引き続きさらなる支援をしていく必要があるようだ。また、大半ではないにせよ、「教員の通信環境(21%)」や「教員の授業環境(13%)」の問題を抱えていることも今回の結果から明らかになった。教員の通信や授業環境についても、支援や対策を考えていく必要がある。

さらに、以上の選択肢以外に問3の「その他」へ記入のあった回答を表27にまとめた。コメントの中には、授業準備に必要な作業量・時間の負担に関する内容が7件、「パソコン作業による眼精疲労・肩こりなどの身体的な負担」3件、「教員自身の知識不足」3件など、慣れないオンライン授業への身体的・精神的負担を示唆する内容が見られた。さらに、「試験の実施方法や学生の不正行為」についても6件挙がっていた。

表26 オンライン授業全般で困っていること

	回答数	比率(280名中)
特に困っていることはない	43	15%
自分の通信環境(自宅・研究室両方)	60	21%
自分の授業環境(自宅・研究室両方)	35	13%
学生の通信環境	177	63%
学生の授業環境	83	30%
学生の印刷環境	55	20%
学生のツールに関する知識不足	75	27%
通信費用などの負担	60	21%
ツールの不安定さ	78	28%
資料共有時のセキュリティ (授業録画、パワーポイントなど)	47	17%
その他	49	18%

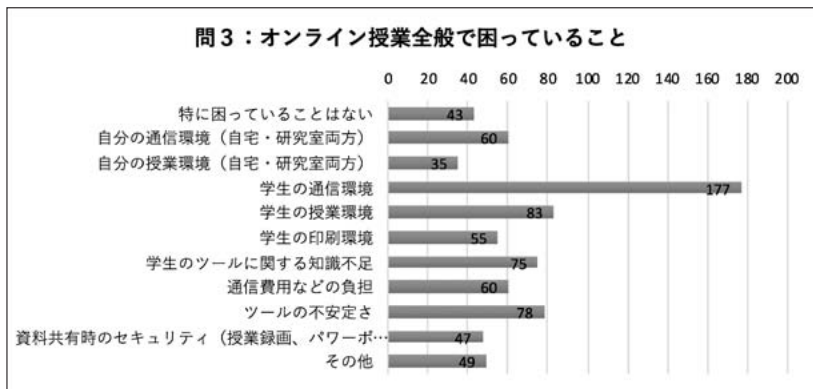


図16 オンライン授業全般で困っていること(棒グラフ)

表27 問3「その他」コメントまとめ

コメント	件数
授業準備に必要な作業量・時間の負担	7
試験の実施方法・学生の不正行為	6
教員自身の知識不足	3
眼精疲労・肩こりなどの身体的な負担	3
授業での学生とのコミュニケーション(顔を出さない、発言なし等)	3
学生の使用ツール(パソコン・スマホ・タブレット)の違いによる受講環境の違い	3
著作権の問題で映画やDVDを用いた授業ができない	3

3.3 授業内容・運営について

問4「今学期行ったオンライン授業の形式についてお答えください。授業規模と授業系列それぞれの項目についてお答えください。(複数選択可)」についての回答を、以下の表28と図17に示す。この質問に対し、規模が同じでも授業内容によって授業形式を変えている場合は複数選択可とし、今期該当の授業を担当していない場合は「該当なし」を選択するよう依頼した。「その他」の項目も設けたが、ほとんど回答が得られなかったため、今回の報告には含めないこととする。

表28 実施したオンライン授業の形式

	A.リアルタイム方式	B.オンデマンド方式	C.資料・課題方式	A、B、Cいずれかの組み合わせ	該当なし	総計
小規模講義 (20名未満)	119	18	37	45	98	317
中規模講義 (20～60未満)	100	17	40	55	111	323
大規模講義 (60名以上)	35	17	12	12	219	295
語学演習科目	91	14	23	29	153	310
専門演習科目	43	3	11	20	216	293
ゼミナール科目	52	3	14	15	210	294

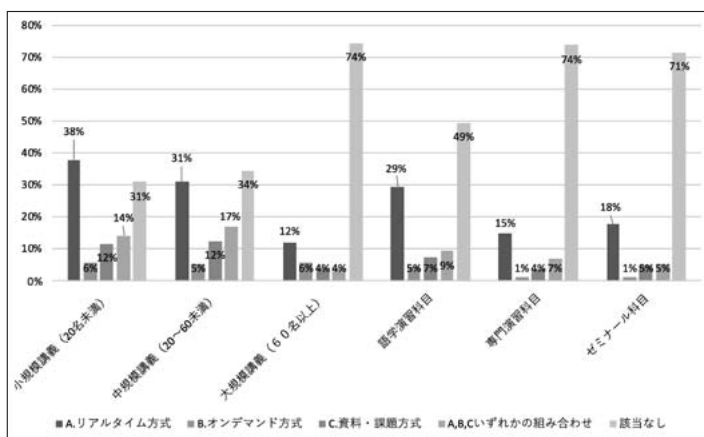


図17 実施したオンライン授業の形式 (比率)

集計結果を授業規模（小・中・大規模講義）とその科目形態（語学演習・専門演習・ゼミナール）ごとにみていく。表28は回答数を、図17ではそれぞれのカテゴリ別の比率を表している。授業規模をみてみると、小規模・中規模講義では共に「A. リアルタイム方式」を採用した教員が一番多く、次に「A、B、C、いずれかの組み合わせ」、「C. 資料・課題方式」、と続き、「B. オンデマンド方式」を採用した教員は比較的少ない傾向にある。対して大規模講義の場合は、「A. リアルタイム方式」を採用した教員が一番多いものの、その次には「B. オンデマンド方式」を採用したケースが多かったようである。次に科目形態ごとにみてみると、「語学演習科目」、「専門演習科目」、「ゼミナール科目」どの授業形態においても、「A. リアルタイム方式」を採用した教員が多く、「B. オンデマンド方式」はあまり採用されなかったことがわかる。

問5「以下のオンラインプラットフォームについて、今学期いくつの授業でご利用になったかをお答えください。」（一部省略）という質問項目の回答から、それぞれのツールが使用された授業数を集計した(表29参照)。オンラインプラットフォームである「Google Classroom」と「Moodle」の結果を比較すると、「Google Classroom」を使用している授業数は1142と、「Moodle」を使用した授業数の約3倍となっている。次に、リアルタイム形式をサポートす

表29 授業で使用了ツール

	使用授業数	不使用
Google Classroom	1142	59
Moodle	434	185
Meet	461	174
Zoom	1106	86
YouTube Live	50	271
YouTube	280	202
SNS	95	253
その他	143	245

る「Zoom」と「Meet」を比較してみると、前者を使用している授業が1106、後者が461となっており、「Zoom」のほうが約2.5倍多く使用されていることがわかる。その他、オンラインツールとして、Gmail, Padlet, Flipgrid, Edmodo, CANVAS, Scrapbox, LINE, BAND, Instagram Live、ディスコード、などのツールを使用した教員もいるようだ。

問6「今学期実施した、学生の授業内容の理解度の確認方法について、当てはまるものをお答えください。(複数回答可)」という質問項目への回答は、以下の表30にまとめた。この結果によると、アンケートに回答した280名のうち、全員が何らかの形で学生の理解度を確認しており、中でも得に91%の教員が「課題」を通して理解度の確認を行ったことがわかる。その他、約半数の教員が「小テスト」や「意見交換」なども確認方法として採用している。

表30 理解度の確認方法

	回答数	比率
特に理解度は確認しなかった	0	0%
小テスト	156	56%
課題	255	91%
意見交換	144	51%
プレゼンテーション	108	39%
定期テスト	123	44%
その他	35	13%

問7「学生からの授業内容などに関する質問に対して、どの程度サポートを行いましたか。」の質問項目についての回答をまとめたものが表31である。結果を見てみると、回答者280名のうち96%の教員が「全ての質問に対してサポートをおこなった」または「ほとんどの質問に対してサポートを行った」と答えている。オンラインという環境上、授業内容に関して不安に思う学生が通常より多いと推測される中、教員は積極的に学生に対するサポートを行っていたといえる。

表31 学生の質問に対するサポート

	回答数	比率
全ての質問に対してサポートを行った	210	75%
ほとんどの質問に対してサポートを行った	59	21%
ある程度サポートを行った	8	3%
質問に対するサポートはほとんど行わなかった	1	0%
質問に対するサポートは全く行わなかった	0	0%
学生からの質問はなかった	2	1%

問8「オンライン授業において工夫していच्छる授業方法があれば、お書きください。」の質問に対しては、123件の記述を得ることが出来た。内容をカテゴリ別に分け、表32にまとめる。複数のカテゴリにまたがるものは双方にカウントした。多くの教員がオンライン授業に対して真摯に取り組み工夫していることがわかる。

表32 オンライン授業で工夫していること

オンライン授業で工夫していること	件数	補足
授業構成	11	授業の組み立て、授業の流れ、
授業運営	57	授業中の工夫、出欠管理など
コンテンツ作成、工夫	36	通信料の軽減、魅力的なコンテンツ、資料作成の工夫など
課題	12	
試験、評価、理解度の確認	12	
学生とのコミュニケーション・フィードバック	46	
学生相互のコミュニケーション	12	
ツールの組み合わせ、別のツール利用	20	各種ツール、別のツールの利用提案
Classroom	10	
Moodle	6	
Meet	12	
Zoom	35	
Google Form	10	
機器	7	ヘッドセット、カメラなど
合計（延べ数）	286	

3.4 学習効果について

問9「学習効果について、総合的、授業規模、授業系列別のそれぞれの項目にお答えください。」という項目の集計結果については、表33と表34をご覧頂きたい。まず、2020年度1期を通して教員の感じた総合的な授業効果について表34をみてみると、280名中約半数である55%の教員が「対面の方が非常に高い」または「対面の方が高い」と答えている。この傾向は、小・中規模講義においても同じことが言える。ただし、大規模講義においては、「対面の方が高い」とする割合が34%に下がり、代わりに「両方同じくらい」と答えている教員が41%と一番高くなっている。授業形態別にみてみると、語学演習科目、専門演習科目、ゼミナール科目のいずれにおいても、総合的な学習効果と同様に、約50%～60%の教員が「対面の方が非常に高い」または

表33 学習効果について（回答数）

	対面の方が非常に高い	対面の方が高い	両方同じくらい	オンラインの方が高い	オンラインの方が非常に高い	該当なし
全授業において総合的に	30	106	86	17	8	33
小規模講義（20名未満）	31	69	67	11	10	92
中規模講義（20～60未満）	17	60	60	19	7	117
大規模講義（60名以上）	6	18	29	7	11	209
語学演習科目	35	42	41	14	3	145
専門演習科目	17	21	27	4	4	207
ゼミナール科目	26	22	20	5	5	202

表34 学習効果について（比率）

	対面の方が高い	両方同じくらい	オンラインの方が高い
全授業において総合的に	55%	35%	10%
小規模講義（20名未満）	53%	36%	11%
中規模講義（20～60未満）	47%	37%	16%
大規模講義（60名以上）	34%	41%	25%
語学演習科目	57%	30%	13%
専門演習科目	52%	37%	11%
ゼミナール科目	62%	26%	13%

「対面の方が高い」と答えている。ただ、ゼミナール科目においては、他の授業系列に比べ学習効果は「対面のほうが高い・非常に高い」と感じる教員が少々多い（62%）という結果になった。全体的に、多くの教員が対面授業の方がオンライン授業よりも学習効果が高いと判断したという結果になった。

問10「問9の「総合的な学習効果」の選択肢をお選びになった理由をお書きください。」は、問9への追加質問として自由記述で回答を求めた。記述欄への回答は178件得られた。総合的な学習効果についての回答別に回答をまとめたものが、表35である。

表35 「問9総合的な学習効果」の選択理由まとめ

問9の回答 (理由の記述件数)	問9の回答理由 (記述内容を端的な言葉にまとめたもの。太字は、複数回答者があったことを示す)
オンラインの方が高い／オンラインの方が非常に高い (16)	出席率が高い／課題の提出率が高い／課題の質が対面より高い／課題への取組が熱心／発言・質問が多い／私語がない／オンデマンドでは学生のペースで学習可能／繰り返し復習できる／学生の積極性がより必要となる／理解度を確認しやすい／集中できやりのがある／ツールを使えばグループ作成の手間を減らせる
両方同じくらい (64)	課題や定期試験の結果を見ると成果は変わらないため／一長一短がある／双方のメリットを相乗的に生かすことが可能／両方の利点を組み合わせることが最も効果的／工夫することで同じに保てる／内容によってどちらかを優先すべき／対面・オンラインなどの形式に左右されるのではなく教師が授業の目的に沿ってデザインすべきもの／クラス人数が少なければどちらも同じ双方向性を保てる／すでにこれまでの授業で多くのオンラインリソースを利用していたため
対面の方が高い／対面の方が非常に高い (91)	学生の反応や授業の手ごたえが確認しやすい／学生の状況を把握しやすい／アイコンタクトやジェスチャーが可能／学生のアウトプットを引き出しやすい／教員の意図が伝わりやすい／人数が多いと欠欠や取り組み状況など把握しづらい／オンラインでは教員と学生の関係が希薄になりがち／双方向性を効果的に実現できる／クラスダイナミクスやグループダイナミクス、コミュニティの確立がしやすい／対面の方が感動が伝わる／学生同士が学ぶ空間を作ることができる／グループワークなどで複数グループを同時に指導できる／オンラインでは学生の学習環境が異なるので公平に授業を提供できない／オンラインは環境によりタイムロスが発生したり進行が遅れたりする／オンラインは問題解決に時間がかかる／テストや課題のコントロールがしやすい／オンラインだと本人の力かどうかわからない場合がある／いろいろな調整がしやすい／双方向性は対面でこそ効果がある／対面の方が情報量が多い／オンラインの方が教員に負担感がある／オンラインでは学生がよりストレスを感じているようだから／言語学習ではやはり口頭での授業が大切／レベルの低い学生はITスキルも低いため学修成果により差が生じる／行なってみた結果の感想／直感／学生は大学(キャンパス)での学びの恩恵を受けるべき
該当なし (7)	双方にメリットデメリットがある／そもそも比較ができるものではない／現段階では十分な判断が出来ない／NUFSで初めてのため比較できない／授業(ゼミ、講義など)により異なる／実技科目には限界がある
記述者合計 178	

まず、「対面の方が学習効果が高い／非常に高い」を選択した理由をみてみると、「学生の反応や授業の手応えや状況が確認しやすい」と言った意見や、「クラスダイナミックスやコミュニティの確立がしやすい」、「対面の方が感動が伝わる」、「(オンラインだと) 教員と学生の関係が希薄になりがち」や「学生同士が学ぶ空間を作ることができる」などのように、授業の内容というよりも、同じ空間を共有することで生まれる、クラス内の信頼関係や人間関係の構築という面において対面の方がオンラインより学習効果が高いと感じるという意見が多くみられた。

対して、「オンラインの方が学習効果が高い／非常に高い」を選択した先生方の意見をみてみると、「出席率が高い」という意見、そして「課題の提出率が高い・質が高い・取り組みが熱心」と言った意見が多くみられた。その他、「オンデマンドでは学生のペースで学習可能」や「繰り返し復習できる」など、オンデマンド形式の利点も挙げられていた。「(学習効果は) 両方同じくらい」を選んだ教員の理由をみてみると、「課題や定期試験の結果をみると成果は変わらないため」のように、実際の学生の1期の学習成果を例年と比較して同等であると感じたという意見の他、「(それぞれの方式に) 一長一短がある」、「工夫することで同じに保てる」や「双方のメリットを相乗的に活かすことが可能」、のように、学習効果は対面・オンラインなどの形式に左右されるものではなく教師が授業の目的に沿ってデザインすべきものであるという意見がみられた。

3.5 オンライン授業の利点・欠点

問11「オンライン授業だからこそ実施できた授業内容があれば、お書きください。」という項目は、オンラインの利点を明らかにすることを目的としている。この質問に対し、280名中150名(54%)は「特になし」との回答であったため、残りの130名(46%)の記述を表36に示す。自由記述で得られた回答を大きく10のカテゴリに分け、その中で似たような回答をまとめた。

まず注目したいのが、「授業内容(具体例)」のカテゴリである。今回の結果から、「作文指導」においてオンライン授業が効果的であったことが明らか

表36 オンライン授業だからこそできた授業内容まとめ

カテゴリ	回答一覧（記述された内容を端的な言葉にまとめたもの）	件数
	特になし	150
授業内容（具体例）	Google Documentの機能により、作文指導が効果的に行えた（例：リアルタイムでの添削、個別ファイルへのアクセス、学生数名でのコラボ作業など）	5
	オムニバス形式の授業で遠方の外部講師への依頼や日程調節が容易になった	2
	海外からのゲストを呼ぶことができた	2
	インターネット上の情報を集めてまとめて発表する活動が行えた	3
	発音練習の課題をだすことができた	1
	語学の授業において、キャプション（字幕）機能を使用することで学生の理解が深まった	1
	You Tubeを利用した映画英語リスニング学習コーナー	1
	実技授業において、実技以外の説明に時間を使用することができた	1
	パフォーマンス・アート演習（演劇）の授業における、Zoomでの作品製作	1
	教育実習の授業において、オンライン授業ツールの使用方法等を授業に組み込むことができた	1
授業内容（全般）	オンラインでの課題や学習（オンデマンド動画など）とライブ授業の連携ができた	2
	様々なツール・メディアを使用することができた（例：scrapbox、InqScribe）	2
	教える側のペースで講義ができるので授業内容が充実した	
課題	課題をとりかき取りの時間が増え、個別のペースで学習できるので語学に適している	2
	課題をとして個別に理解度を把握することができた	6
	課題をたくさん出すことができる	4
資料提示	課題に取り組み時間に自由度があったため理解が深まった	3
	学生が自分のペースで学習をすすめることができた	2
	資料の共有・配布が楽に行える	10
Zoom	対面授業では使用できなかった資料を提示することができた（例：映像、作品など）	10
	過去の資料（授業動画やクラスメイトのレポートなど）を繰り返しみることができた	6
	（オンラインで顔が見えないことにより）活発な意見交換・プレゼンテーションができた	11
	対面では毎回同じ学生同士になりがちなグループ分けも、Zoomの自動振り分け機能を使用することにより複数のクラスメイトと話しをする機会ができた	10
Classroom	ZoomのBreakout rooms機能を使用することで、質の良い意見交換ができた	7
	Zoomの録画機能で授業の様子を記録することができ、採点に役立った	5
	Google Classroomの課題提出機能での添削・返却作業がスムーズに行えた	3
	Google Classroomを活用したピア・レビューが効果的であった	1
	Google Classroomを利用することで多彩な課題の提出が可能となった（例：手書きの学習ノート、発音を録音した音声ファイルなどの課題の収集など）	1
Moodle	Google Classroomで資料や課題を共有することで、欠席していても授業内容にアクセス可能	1
	簡単にリサーチ課題を与えてMoodleのフォーラムに投稿させることができた	1
フィードバック	Moodleを活用した資料の共有	1
	小テストや課題について、すぐに学生の回答を閲覧・採点でき、すぐに解離できた	10
	より多くの学生から授業に関する質問があった	5
	授業時間外の学習支援の量と質を気にかけるようになった	1
	遠隔地や授業時間外のフォローアップが可能となった	2
学生のリテラシー	個人の理解度に応じたフィードバックができた	2
	学生のICTリテラシーが上がった	2
その他	匿名のアンケートがとりやすかった	2
	コメント総数	130

かになった。例えば、Google Documentを利用することにより、リアルタイムでの添削や、学生間のコラボレーション作業、個別ファイルへのアクセスが可能になり、より効果的に指導することができたようだ。次に多かったのが、「外部講師や海外からのゲストなどを呼ぶことができた」という内容である。これは、オンラインという環境であるからこそ、海外や遠方に住んでいる講師・ゲストでも移動時間や費用がかからず、比較的日程調節や依頼がしやすいために実現することができた授業内容だと言える。さらに、調査・リサーチをさせる系統の授業において、「インターネット上の情報を集めてまとめて発表する活動」が容易に行えたという意見も複数件挙がっている。その他、語学系の授業においては、「キャプション（字幕）機能を使用することで学生の理解が深まった」や、「YouTubeを利用したリスニング学習」や「発音練習の課題を課すことができる」などのメリットも報告されている。オンライン授業での授業が困難であると予測される実技・実習系の授業においても、「実技以外の説明に時間を使用することができた」や「Zoomでの作品製作ができた」、「教育実習においてオンライン授業ツールの使用方法等を授業に組み込むことができた」など、教員の工夫により、オンラインでも効果的な授業が行えたことが窺える。

次に注目すべきは、Zoomの機能についての高い評価である。特にZoomのBreakout roomsについて多くの教員が利点を挙げている（表36参照）。便利な点として、1)自動振り分け機能を使用することで毎回違う学生と意見交換をしたりペアワークをすることができる、2)グループ分けにかかる移動時間がない、3)少人数の部屋に分けることで他のグループの意見に左右されたり真似したりすることがなくなり、より質のよいディスカッションができ、（特に語学クラスなどで）話すプレッシャーが少ない、などが挙げられている。そのせいか、Zoomによる話し合いでは、「活発な意見交換」ができる、もしくは「より効果的なプレゼンテーションができる」という意見も多く挙げられた。さらに、授業の様子を録画機能で保存しておくことができるのも利点として複数報告されている。これらの結果をみるに、大学がZoomの利用を検討・導入に踏み切ったことが、効果的なオンライン授業の運営に貢献してい

ると言えるのではないだろうか。

その他、「Google Classroomの課題提出機能による添削・返却・採点作業がスムーズに行える」ことや、Google formを利用した「小テストや課題の解答をすぐに閲覧・採点・フィードバックできる」こと、またそれらの課題や小テストを通して「個別の理解度の把握ができる」ことは、オンライン授業の強みだといえる。さらに、様々なオンラインツールを使用することで「資料の共有・配布が容易」であることや、オンラインという形式であるからこそ、普段「対面授業では使用できなかった資料などを提示することができた」という報告も多く寄せられている。

問12「オンライン授業のために実施できなかった授業内容があれば、お書きください。」は、問11と対になる質問であり、オンライン授業の欠点を明らかにするための項目である。この項目に対しては、280名中127名（45%）が「特になし」と回答した。残り153名（55%）から集まった記述回答を、大きく6つのカテゴリに分け、集計したものを表37に示す。

まず、試験関連のカテゴリをみていく。今回のアンケートの結果では、従来行っている「小テスト・試験が実施できなかった」という内容の報告が13件寄せられている。その要因は様々だが、主に語学系の授業で「筆記試験がオンラインでは実施できなかった」や、「選択式でない内容のテストづくりが大変」、「テストを作成する時間がなかった」の他、「カンニング等の不正」などが主に挙げられていた。

また、実践型の発表や調査を主とする授業においてオンラインでできることには限界がある(11件)ことも明らかになった。例えば、プレゼンテーションの授業で重要視される「対面でのプレゼンテーション」や、実際にその現場を訪れる「フィールドワーク」、同時に複数の学生が発表を行う「ポスタープレゼンテーション」等の活動は、オンラインでは実施することが困難であるため、多くの授業で実施を断念もしくは代替案で授業を行わなければならなかったようである。また、実践型の授業であるスポーツ科目、通訳、文化体験、教育実習指導、Webデザイン、教育法規、演劇などの授業では、それ

表37 オンライン授業のために実施できなかった授業内容まとめ

カテゴリ	回答一覧（記述された内容を端的な言葉にまとめたもの）	件数
	特になし	127
試験関連	小テスト・試験が実施できなかった	13
実践型の発表や調査	対面でのプレゼンテーション	5
	フィールドワーク	2
	ポスタープレゼンテーションやミニカンファレンス	1
	ロールプレイ	1
	スクリプト発表	1
	デモンストレーション的な活動	1
教室活動	映画・動画・ドラマを授業中に視聴すること	15
	発音指導	13
	グループワーク	13
	ペアやピアでの作業（例：会話練習・作文添削・文法説明など）、気軽なペアワーク等	11
	全体の意見交換・討論（ディベート）・ディスカッション	9
	受講状態・学生の反応・参加度・全体の把握やコントロール	9
	理解度・習熟度の把握	4
	机間巡視によるコメントやチェック（さりげない個別指導）	6
	身体・カード・道具を使ったゲーム形式での学習	5
	対面で得られる空気感・ダイナミックスの共有	4
	臨機応変な補足説明	2
	個別の対面フィードバック	2
	内容を従来より減らさなければならなかった	2
	非言語コミュニケーションの使用	1
	会話ベースの協働学習	1
	黒板を使った説明（教員の熱意が伝わらない）	1
	ホワイトボード等を用いたグループディスカッション	1
	ビデオや絵図を提示しながらの説明	1
	対面での意見交換	1
	授業中のハード資料（書籍、辞書／事典）の即時提示	1
	資料配布への制約（例：文献コピーを大量に配布できない）	1
	質疑応答への全体への回答（個別に返答する負担）	1
	課題の添削指導	1
	研究指導	1
	理解のための質問ができない	1
	ついてこられていない学生のケア	1
関係性の構築	学生の顔と名前が一致しない	2
	学生が発言しにくい	1
	学生間、教員と学生間の関係性が築きにくい	1
ネット・機材環境	ネット環境の不安定さや学生の持っているデバイスの違いによる教育の質のばらつき の均一化	3
	インターネット接続環境が悪い学生に対してのフォロー	3
	自宅のインターネット環境が不良により、リアルタイムで講義対象の映像資料を学生 に見せることができなかった	1
	学生のインターネット料金を気にしてリアルタイム方式があまりできなかった	1
その他具体例	スポーツ科目における、細かなスキル指導や器具を使用するトレーニング	2
	通訳実践・練習が出来なかった。	1
	日本文化を実感するための着付や楽器演奏（三味線と太鼓）ができなかった。	1
	留学生向けの書道のクラスでの実践的な指導ができなかった。	1
	学外での教育実習のための授業において、教室という空間認識や机間巡視、板書等、実 際の教室を使うことでしかできない体験ができなかった	1
	WEB デザインの授業で学生のデバイスが途中まで揃わなかったため、画像編集ソフトの 授業ができなかった。	1
	教育法規 教育に関するスピーチを学生さんの生の声で伝え合うことができなかった	1
	実演すること。	1
	コメント総数	153

ぞれ必要な器具が使用できなかつたり、体験・実践を通しての学びの場を提供したりすることができなかつたという報告があつた。

続いて、教室活動のカテゴリをみでみる。中でも一番報告件数が多かつたのは「映画・動画・ドラマを授業中に視聴すること」(15件)である。動画などの資料を提示しやすい、という内容がオンライン授業の利点として挙げられていたが、動画や音声資料がDVDもしくはVHSなどのハードコピーである場合は、オンラインでの共有が難しいということが明らかになつた。また、ZoomやMeetで画面共有をしながらの視聴をする場合には、ネット環境により音声や映像が乱れてしまうなどの問題もある。また、MLCの利用ができないため、学生に自分で好きな映像資料を選んでもらうことができなかったり、著作権の関係で教室での視聴なら可能であつたものが他の媒体では視聴できないなど、さまざまな問題が挙げられている。

さらに、語学系の授業における「発音指導」(13件)もオンライン形式では難しい。対面授業でなら可能であつた、学生全員による一斉発音練習や、音読練習、シャドーイングやオーバーラッピングなどを用いた発音指導や、個別の発音確認などが、オンラインでは実施できなかつたと報告されている。また、リスニングにおいてもツールが不安定で練習が十分に行えなかつたという報告もあつた。

その他、対面の教室活動では可能であつた「グループワーク」や「ペアやピアでの作業(例:会話練習・作文添削・文法説明など)、気軽なペアワーク等」がオンライン形式では実施できなかつたという報告も複数件よせられている(計24件)。授業外での作業が必要なグループワークやグループプレゼンテーションなどは、オンライン形式では適していないため、個人調査などに変更したという報告が上がっている。また、Zoomの自動グループ分け機能は便利だが、学生主体でのグループづくりができないという意見もあつた。

他にも、「全体の意見交換・討論(ディベート)・ディスカッション」が実施できなかつたという報告が9件、「受講状態・学生の反応や参加度・全体の把握やコントロール」(9件)や、「(学生の)理解度や習熟度の把握」(4件)が困難であるという報告も挙がっている。その原因としては共通して、学生

がカメラをオフにしていたり音声をミュートにしていること、画面に映る顔が小さすぎて表情が見えない、学生からの反応や発言が少ないことなどが挙げられている。また、中には授業中にも関わらず他事をしている学生も居るため、学生の集中力を保つのが大変だという意見もあった。受講マナーなどの講習が、問題解決へとつながるかもしれない。

また、教室環境であれば可能であった「机間巡視によるコメントやチェック（さりげない個別指導）」（6件）ができないのも、オンラインの欠点である。机間巡視ができない以上、メールで個別に対応することとなるが、その対応の量に負担に感じている教員もいるようだ。

その他、「身体・カード・道具を使ったゲーム形式での学習」や「対面で得られる空気感・ダイナミックスの共有」、「学生間、学生教員間の関係性の構築」や、「ネット環境の不安定さや学生の持っているデバイスの違いによる教育の質のばらつき均一化」が難しいとする意見もあった。

問13「オンライン授業の利点として挙げられるものを、下記の選択肢からお選びください。（複数回答可）」という項目は、問11に引き続き、オンライン授業における利点について明らかにするために用意した。この質問は複数回答可としたため、回答数と比率にて結果を報告する。

表38の結果を見ると、「通勤にかかる時間がない」が圧倒的に多く、280名中74%の教員がオンラインの利点として挙げている。続いて、半数以上の教員が「課題が出しやすい」（57%）、「資料の提示がしやすい」（51%）、「出席率が良い」（50%）という項目を利点として選択している。

「資料の提示がしやすい」は、問11でも利点として挙げられていた。その他、「成績が管理しやすい」（41%）についても、問11の「Google Classroomの課題やテスト機能による添削・返却・採点作業がスムーズに行える」と合わせて考えると、Google ClassroomやMoodleなどのプラットフォームの採点・成績入力機能が役に立っていることがわかる。

表38 オンライン授業の利点

	回答数	比率
通勤にかかる時間がない	208	74%
課題が出しやすい	159	57%
資料の提示がしやすい	142	51%
出席率が良い	139	50%
成績が管理しやすい	114	41%
遅刻が少ない	112	40%
出席が把握しやすい	110	39%
学生に自律学習能力が身に付く	105	38%
授業内容を記録しておける	90	32%
私語をコントロールできる	64	23%
時間的制約がない	58	21%
授業運営の幅が広がる	56	20%
学生が寝ない	49	18%
学習進度が把握しやすい	38	14%
学生の発言が増える	24	9%
学生間の交流が増える	14	5%
授業準備が楽	8	3%

問14「オンライン授業で困っていることを、下記の選択肢からお選びください。(複数選択可)」は、オンライン授業のデメリットを明らかにするために用意した項目である。各選択肢の回答率と比率を表39にて報告する。オンラインの欠点として、一番多かったのは「対面よりも授業準備に時間がかかる」(75%)であった。これは、問2の回答で明らかになったように、93%の教員が今学期初めてオンライン授業を担当するということで、対面授業の内容をオンライン仕様に変更するため、授業準備に通常以上の時間を要したことが原因だといえる。中には、コメントとして「今回は準備が大変であったが、来期からは要領も分かり少しストックもできたので負担が減りそうだ」といった内容の記述もあった。今回は初めての試みであったために負担が大きかったが、来期からは負担も多少緩和されるであろう。

表39 オンライン授業で困っていること

選択肢	回答数	比率
対面よりも授業準備に時間がかかる	209	75%
学生間の交流が少ない	155	55%
学生とのコミュニケーションが取りにくい	136	49%
授業運営に制約がある	119	43%
学生の発言が少ない	105	38%
課題が多くならざるを得ない	103	37%
学生の集中度をコントロールできない(私語・他事を含む)	94	34%
学習進度が把握しにくい	67	24%
出席が把握しにくい	50	18%
授業進度についていけない学生が増えた	30	11%
遅刻が多い	11	4%
出席率が悪い	0	0%

次にオンラインのデメリットとして半数近くの教員に選択されたのは、「学生間の交流が少ない」(55%)と「学生とのコミュニケーションが取りにくい」(49%)であった。問12の、「オンライン授業で実施できなかったこと」の回答の中にも、同様の内容が含まれていた。学生とのコミュニケーションが少ない理由としては、学生が顔出しをしないことや、ミュートにしていることで「学生の反応がわからない」ことや、「参加度が把握できない」ことが要因として挙げられている。中には、カメラ付きでないパソコンを使用している学生もいるため、カメラをONにすることを強制できない点が悩ましい、という意見もあった。用意した選択肢以外に挙げた意見を、以下の表40にまとめる。

問12や問14で明らかになったオンライン授業のデメリットについて、今後対策と改善を考えていく必要がある。多くの教員が心配している「学生間の交流が少ない」点については、2期のCreative Weekの実施によって、改善されると予測できる。また、「学生とのコミュニケーションが取りにくい」については、学生向けの「オンライン受講マナー」についての項目を大学として提示したり、セミナーなどを行ったりすることで改善できるのではないだろ

うか。今回のように教員がオンライン授業において困難を感じている点などについての情報や、学生アンケートの結果などを学生にも共有し、お互いに歩み寄りながら、一緒により良い授業環境を作り上げていくことが理想的だと考える。

表 40 問 14 その他のコメントまとめ

問 14 その他のコメント	件数
学生からの反応がない・参加度がわからない	8
学生のネット環境によって受講状況が不公平	4
成績評価・試験作成が難しい	4
学生の理解度の把握が難しい	2
授業外での学生間の交流がない	2
映像・動画が見せられない	2
学生の情報リテラシーにばらつきがある	2
課題の採点に時間がかかる・負担	2
機器の不具合に対してのサポートができない	1
学生の様子が把握できない	1
プライバシー保護による制約	1
授業の質が落ちる	1
教員のモチベーションが下がる	1
学生の質問に即座に答えられない	1
目が疲れる	1
仕事のON・OFFが難しい（ずっと仕事をしている状態）	1
個別指導ができない	1
指定のプラットフォームが使いにくい	1
ツールが不安定	1
文字情報よりも動画のほうが学生からの評判が良い	1
システムの不具合に対するサポートが脆弱	1
学生の心と体の状態の把握	1
学生の部屋に他人が入る	1
費やすエネルギーに対する給与が少ない	1

3.6 将来的なオンライン授業の実施について

問15「オンライン授業に関して、大学からのどのようなサポートを希望されますか。(複数選択可)」という質問は、複数選択可の項目であったため、回答数と比率を集計し、報告する。以下の表41と図18をご参照いただきたい。

図18の棒グラフを見てみると、約60%の教員が「役立つ情報の共有」を選択している。回答が多いであろうと予測された「Eラーニングプラットフォームの講習会」や「Web会議ツールの講習会」等については、一定の要望はあるものの、25%程度にとどまっている。これは1期の準備の段階で、大学が

表41 大学に望むサポート

	回答数	比率
Eラーニングプラットフォームの講習会 (Moodle, Classroom)	71	25.60%
Web会議ツールの講習会 (Meet, Zoom)	65	23.50%
デバイスの操作の講習会 (パソコン、タブレット、スマホなど)	35	12.60%
オンライン授業用ガイドラインの提示	80	28.90%
役立つ情報の共有	167	60.30%
授業例の提示	116	41.90%
テクニカルサポートの充実	121	43.70%
総計	277	277

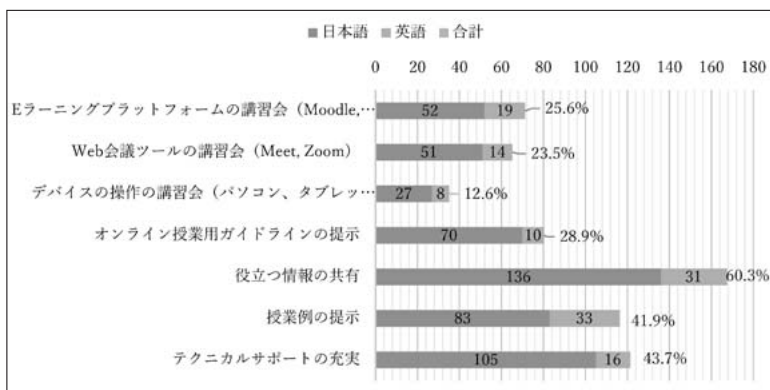


図18 大学に望むサポート (棒グラフ)

教員のための様々な講習会を準備した成果ではないだろうか。2期から初めてオンライン授業に取り組む先生方や、まだツールに不安を感じている先生方のために講習はもちろん必要であるが、今回のアンケートの結果を見る限り、多くの教員は1期で要領をつかみ、2期経向けた「役立つ情報」や「授業例の提示」、「テクニカルサポートの充実」など、基礎を踏まえた上での次の段階へのサポートを求めているようである。

その他、用意した選択肢以外の要望も多数寄せられた。表42は、その他の回答を大きく6つのカテゴリに分け、集計した結果を示す。サポート関連に

表42 問15 その他への回答一覧

カテゴリ	その他への回答一覧（記述された内容を端的な言葉にまとめたもの）	件数
サポート関連	学生へのサポートの強化・充実（パソコンの基本操作・マナーなどの講習会等）	12
	オンラインテスト作成・実施についての講習会	1
	Google フォームを使ったテストの活用例の提示	1
	授業中に起きる不具合に、電話などで対応してもらうこと	1
	テクニカルな作業の代行（例：動画作成など）	1
	家庭環境におけるネット環境改善へのサポート	1
	オンライン授業インフラ設備へのサポート	1
	パソコン環境、特にメモリーに関してのサポート	1
費用の補助	大学にオンラインのクラス分けを行なってほしい	1
	通信費・機材購入・印刷など費用面での補助	11
	オンライン授業で使用するデバイス、アプリ、定期購読などにかかる費用への補助	1
設備関連	時間外手当にあたる報酬（授業準備分などを考慮してほしい）	1
	Moodleを最新バージョンにアップデートしてほしい	2
	教員への性能の良いパソコンの貸し出し	2
	Zoomもしくは他のプラットフォームのウェビナー機能の利用	1
	遠隔授業が行なえるスペース及び設備の充実	1
	教室からのオンライン授業の許可	1
	より良い設備	1
マニュアル・ガイドラインの作成	各ツールの詳細なマニュアルがあると良い	1
	利用機器・ソフトウェアの統一、ないしは推奨環境の提示	1
	Google ドライブの使い方と適切な管理方法	1
	ネット環境が不安定な学生への配慮をどうするか、どこまでするか	1
	オンライン授業に取り残された学生への一貫した対応方法	1
	初めてオンライン授業を受講する学生のためのガイドライン／マニュアルがあると良い	1
情報共有	学生へのPC所持の義務化	1
	アンケート結果の開示	1
その他	教材資産をコンテンツ化し、オンラインコース（通信学科）を設立する	1
	ETS関連の外部団体が実施する（オンライン）テストの事前事後テスト的な実施を希望	1
	Google Classroomで学生の視点で見られるようテストアカウントが欲しい	1
	Google Classroomで学生の氏名が表記されるようにしてほしい	1
	1つの講義における多チャンネル配信	1
その他 コメント総計		54

関する内容として、「学生へのサポートの強化・充実（パソコンの基本操作・マナーなどの講習会等）」が12件挙げられていた。前セクションに挙げられていたように、受講生のマナーに関する講習もしくは、ルールの設定などがあると、教員のフラストレーションも緩和されるのではないだろうか。自らの学びの機会を最大限活用できるよう、能動的・積極的に学ぶ姿勢が大切だという意識を、学生自身に持たせることが重要になる。

次に注目したいのが、「マニュアル・ガイドラインの作成」のカテゴリである。特に太字の項目「初めてオンライン授業を受講する学生のためのガイドライン／マニュアル」や、学生も教員も使用できるような「各ツールの詳細なマニュアル」があれば、メディアセンターへの問い合わせの件数も減らすことができ、先に問題になっていた受講マナーなども改善されるのではないかと考える。また、「利用機器・ソフトウェアの統一、ないしは推奨環境の提示」や「Google ドライブの使い方と適切な管理の方法」はよりよい受講環境を整える上で不可欠だと言える。さらに、「ネット環境が不安定な学生への配慮をどうするか、どこまでするか」や「オンライン授業に取り残された学生への一貫した対応方法」について、大学の方針が決まっていれば、評価基準が明らかになる。先に出てきたオンライン授業で困っている点として挙げられていた「成績評価が困難」についても、このような基準が提示されれば、改善されると予測できる。

「費用の補助」（13件）についての要望も挙がっている。特に非常勤の先生方からオンライン授業に必要な「通信費・機材購入・印刷などにかかる費用の補助」について求める声も挙がっている。費用面でのサポートをしていくことも、教育の質を保つ上で重要であるといえる。

問16「今後のコロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業が継続される可能性があります。1期の状況を踏まえ、大学に改善を望むことがございましたら、ご自由にお書きください。」については、全部で164件の記述があり、要望を複数記述している教員がいるため述べ195件の要望となる。内容は、表42（問15のその他の記述）と同様にまとめることができる。表43

表43 大学に望む改善まとめ

カテゴリ	件数	表29にない内容を抜粋
サポート関連	64	Classroomなどへの履修者登録代行／TAの配備／図書館の全面開放／サポート専任の人材／学生に資料を郵送／教員学生への健康面サポート／学生へのメンタルサポート
費用の補助	30	学生に2期にも財政支援をすべきである／在宅勤務手当／研究費の増額
設備・ツール関連	15	プラットフォーム（Classroom）に限定しないよう希望／頑強なプラットフォームへの変更／Moodleバージョンアップ／ポケットWiFi貸与
マニュアル・ガイドラインの策定	14	授業中の素行その他、学生指導に関するガイドライン／オンライン授業と通信教育の境目を明確に／学生の出欠を緩やかに
情報共有・方針の早期決定	16	意志決定を早く行い迅速に情報共有を望む／問題と対処の共有／大学からの依頼文書が多く労いの言葉がない／試験だけでも対面で実施／Q&Aだけではなくメリハリをつけ継続的に情報発信
その他	41	クラスの少人数化／著作権の問題をクリア／受講生の変更を無くす／事務手続きの簡素化（オンライン決裁）／TOEIC及びTOEFLの学内試験実施
現状維持	15	安全第一
	195	

は表42のカテゴリにあてはめて内容をまとめたものである。

なお、「その他」のうち15件は改善の要望ではなく、現状維持（オンライン授業）を強く求めるもの、大学関係者への協力のサポートのお礼であった。

【宮本真有】

第4部 学生と教員の意識の相違

第2部および第3部では、学生・教員に対するアンケート調査結果を、各々を関連付けずに分析し報告した。双方のアンケートには共通質問項目として、「オンライン授業で困っていること」、「オンライン授業の利点」、「対面授業とオンライン授業の学習効果」がある。そこで第4部では、これらの共通質問項目の結果を、学生と教員という異なる立場での考えを対比し分析する。

4.1 オンライン授業で困ったこと

表44は第2部の表17を、表45は第3部の表39をもとに、学生、教員が困ったことについて回答者数の多い10項目を抜粋したものである。割合は、学生、教員各々の全回答者数を母数としており、全体の何%が回答しているかを示している。50%以上の学生が困っているのは「課題が多い」であり、教員は「授業準備に時間がかかる」「学生間の交流が少ない」の2つである。

次にこれらを対比させた結果を図19に示す。網掛けは両方に存在する回答

表44 学生が授業で困ったこと

	学生が授業で困ったこと	回答数 (割合)
1	課題が多い	2394 (68.0%)
2	集中力が続かない	1596 (45.3%)
3	友達と一緒に学べず孤立感を感じる	1575 (44.7%)
4	先生に質問がしにくい	1565 (44.4%)
5	学習のペースがつかみにくい	1369 (38.9%)
6	ネット環境に不具合がある	1174 (33.3%)
7	教員からのフィードバックがない	978 (27.8%)
8	コンピュータの操作に慣れていない	905 (25.7%)
9	授業の教材がわかりにくい	583 (16.6%)
10	授業で使用されるシステムの使い方がよくわからない	465 (13.2%)

表45 教員が授業で困ったこと

	教員が授業で困ったこと	回答数 (割合)
1	対面よりも授業準備に時間がかかる	209 (74.6%)
2	学生間の交流が少ない	155 (55.4%)
3	学生とのコミュニケーションがとりにくい	136 (48.6%)
4	授業運営に制約がある	119 (42.5%)
5	学生の発言が少ない	105 (37.5%)
6	課題が多くならざるを得ない	103 (36.8%)
7	学生の集中度をコントロールできない (私語・他事を含む)	94 (33.6%)
8	学習進度が把握しにくい	67 (23.9%)
9	出席が把握しにくい	50 (17.9%)
10	授業進度についていけない学生が増えた	30 (10.7%)

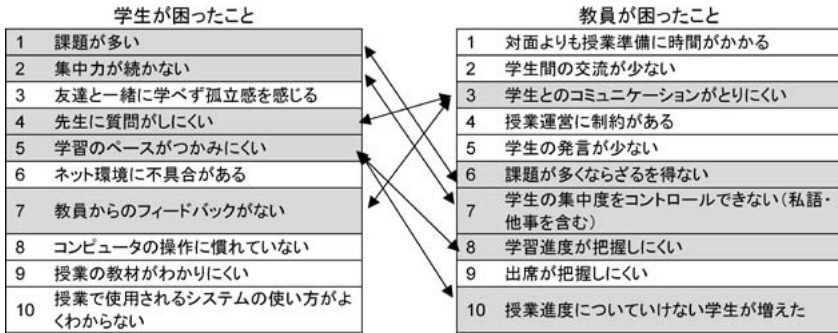


図19 学生・教員の困ったことの回答数順位の対比

を、また矢印は関連していることを示す。例えば、学生が最も困っているのは「課題が多い」であり、これに関連して教員側では「課題が多くならざるを得ない」があがっている。これらは授業方法や学生の理解度の確認方法を工夫することで、双方にとって妥当な課題の量や内容に落とし込める可能性がある。また「先生に質問がしにくい」に対して「学生とのコミュニケーションがとりにくい」、「教員からのフィードバックがない」についても、互いが問題意識をもっていることを確認するだけでも改善が見込める。「集中力が続かない」に対して、「学生の集中度をコントロールできない」については、学生は2位にあるが、教員は7位である。これらをオンライン授業だからその問題と考える学生は多いであろう。教員は対面授業と異なり学生の授業中の学習状況がつかみ辛く、集中の度合いを確認することが困難と思われる。

4.2 オンライン授業の利点

表46は第2部の図9を、表47は第3部の表38をもとに、学生、教員が考える利点について回答者数の多い9～10項目を抜粋したものである。割合は、学生、教員各々の全回答者数を母数としており、全体の何%が回答しているかを示している。50%以上の学生が認める利点は「移動が不要で効率が良い」と「自宅での学習ができる」であり、教員は「通勤にかかる時間がない」「課題が出しやすい」「資料の提示がしやすい」である。図20は学生・教員の回答を対比させたものである。

表46 オンライン授業の利点（学生）

	学生が考える利点	回答数(割合*)
1	移動が不要で効率が良い	2831 (80.4%)
2	自宅で学習できる	2280 (64.8%)
3	自分のペースで学習出来る	1575 (44.7%)
4	コンピュータやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる	1262 (35.8%)
5	課題などのデータ管理がしやすい	895 (25.4%)
6	復習が何度も出来る	740 (21.0%)
7	教室より集中出来る	405 (11.5%)
8	先生に質問がしやすい	280 (8.0%)
9	教材がわかりやすい	67 (1.9%)

表47 オンライン授業の利点（教員）

	教員が考える利点	回答数(割合*)
1	通勤にかかる時間がない	208 (74.3%)
2	課題が出しやすい	159 (56.8%)
3	資料の提示がしやすい	142 (50.7%)
4	出席率が良い	139 (49.6%)
5	成績が管理しやすい	114 (40.7%)
6	遅刻が少ない	112 (40.0%)
7	出席が把握しやすい	110 (39.3%)
8	学生に自律学習能力が身に付く	105 (37.5%)
9	授業内容を記録しておける	90 (32.1%)
10	私語をコントロールできる	64 (22.9%)

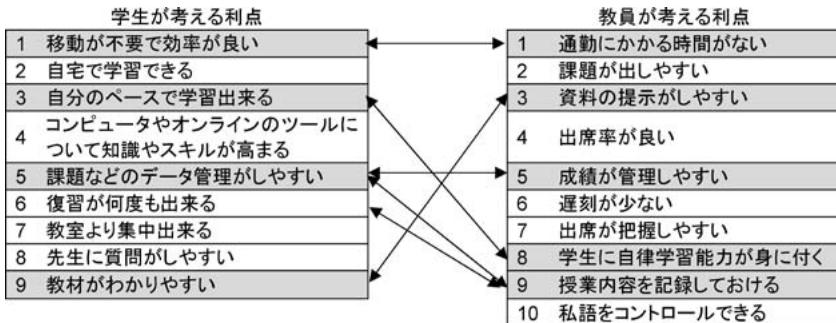


図20 学生・教員が考える利点の相違

共通項は、大学や教室への移動時間が無くなることによる時間的な効率である。また、資料を提示しやすく、学生側も欠席者が受け取ることができ、何度も復習できるなど、授業プラットフォームを確立しておけば授業時間外のやり取りが可能で、データの管理がしやすい。したがってデジタルデータの恩恵を双方が認識していることがわかる。その他双方に類似する項目が多くみられる。異なる点としては、教員が多くの項目で4割を超える回答があるのに対し、学生の4位以降の項目は回答の割合が低いことである。「集中出来る」や「質問しやすい」は個人の資質に依るところが大きい。「集中力が続かない」と「先生に質問がしにくい」という全く逆の意見が、「困ったこと」の上位に挙がっている（表44参照）。これらの問題はオンライン授業に限ったことと決めつけることはできず、従来の対面授業の方式でも挙がっている問題である。今後、精査が必要である。

4.3 対面授業とオンライン授業の学習効果

表48および図21は、対面授業とオンライン授業の学習効果について、学生・教員双方に尋ねた結果を1つにまとめたものである。図21の網掛け「対面の方が非常に高い」と「対面の方が高い」を合わせると、学生は55%、教員は48%と何れも対面授業の方が効果があると考えている。とりわけ学生は、対面の方が非常に高いという回答が4分の1ある。一方でオンラインの効果を認めているのは、学生・教員ともに9%と、1割に満たない。

学生と教員の違いを回答の割合から見ると、「両方同じくらい」と考える学生が14%に対し、教員は31%と多い。また22%の学生が「授業により異なる」と回答している。両者の考え方に齟齬が見られるが、これらは何れも、

表48 対面授業とオンライン授業の学習効果に対する考え方（回答数）

	対面の方が非常に高い	対面の方が高い	両方同じくらい	オンラインの方が高い	オンラインの方が非常に高い	授業により異なる(*)
学生	867	1082	494	210	102	766
教員	30	106	86	17	8	33

*教員は「該当なし」として回答した数である

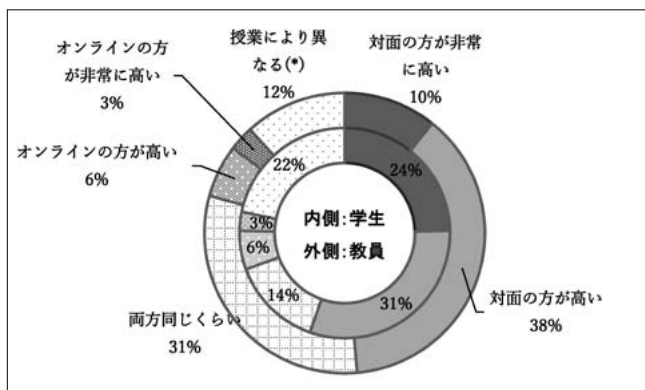


図21 対面授業とオンライン授業の学習効果に対する考え方の相違 (表48のグラフ)

工夫次第でどちらの方式も効果的な授業とすることが出来ることを示唆している。実際に「両方同じくらい」と回答した理由として、多くが「一長一短ある」と記述している。

むすび

2020年度1期のオンライン授業について、サポートディスクの対応状況、学生・教員へのアンケート調査・分析結果から確認された主な点を、順不同で以下に列挙する。

- ・問い合わせ状況を見ると、LMSなどのプラットフォーム、Web会議システムなど、オンライン授業で使用するツールに関するもの、授業の進め方などが多い。
- ・通信をはじめとする学習環境に問題を抱えている学生は、特に授業の満足度が低い。また授業の形態によっても異なる。リアルタイム双方向型やオンデマンド配信型は満足度が高いが、資料・課題提示型は低い傾向にある。
- ・学生は課題への対応に最も苦慮しており、低学年ほどその傾向が強い。履修科目が多いことが原因の一つと推測する。
- ・学生のその他の問題として、集中力が続かない、教員や友人とのコミュ

ニケーションがとり辛いなどが見られる。ただし、対面より集中できる、質問しやすいなど逆の意見もある。

- ・教員の多くは、リアルタイム双方向型を取り入れており、対面に近い形を実現しようとする試みが見られる。また学生との双方向性を確立していると考えているが、学生側ではフィードバックを得られない点を指摘している。
- ・教員はオンライン授業のメリットとして、時間的な効率を挙げる反面、授業準備に時間がかかるデメリットを挙げている。授業における様々なトラブルや問い合わせはオンライン授業に関わるツールに関する内容、授業の進め方に関することが多い。
- ・学習効果については、学生、教員の多くが「対面授業の方が効果がある」と回答している。一方で「オンラインの方が効果がある」との回答は、学生・教員ともに1割に満たない。「どちらも同じ」は、教員は31%と高く、学生の解答14%と齟齬がみられる。

次に、今後の改善に向けた方策としては、以下が考えられる。

- ・学習環境に問題がある学生について精査し、対応を検討する。
- ・授業で利用するツールや授業方法に関する諸問題を短期間に解決するために、各部門の経験を集約・蓄積し、共有できるしくみを確立する。
- ・学生、教員ともに、問題なく運営できるよう必要に応じて講習会を行う。
- ・学生、教員が共通して「対面授業の方が学習効果が高い」と回答している点について、さらに精査が必要である。諸問題については学生によって受け止め方が異なる。対面、オンラインなどの授業形態というよりも、こうした多様な学生に対応できるような授業への工夫が必要である。また、全体で対処すべき問題と、個別に対処すべき問題との切り分けも必要である。

本稿執筆時点で、すでに2期が開始されているが、問い合わせやトラブルは1期開始時に比べ激減している。これは学生や教員、各部門の努力と経験を活かしていること、FD研修会で本調査結果を報告し情報共有を行ったこと

の成果と考える。今回の調査分析でオンライン授業の問題点が明確になったと同時に、対面でないメリットも確認された。対面授業が出来ない場合の代替ではなく、対面、オンライン各々の利点を生かし、併用する方向が考えられる。今後も随時状況を把握し、対面、オンライン双方の分析が必要と考える。

【山本 恵】

謝辞

本調査にあたって、大学関係者（学生、教職員）の非常に多くの皆様にご協力いただいたことに、深く感謝いたします。

注

- ¹ 情報通信技術を活用して本学の教育・研究及び事務の改善を図ることを目的として2003年に設立された。
- ² 各種情報メディアを活用した教育・個別学習に関する研究開発や運用・支援、言語情報、データ科学教育に関する総括的業務を行う目的で2020年4月に発足した。2021年度よりメディア情報教育センターと統合予定である。
- ³ 1回の問い合わせで複数の機能に渡る質問をしていた場合があるため、合計は表2の数値より多くなっている。
- ⁴ <https://intra.nufs.ac.jp/faq> 教員用（2020/07/12確認）。その後、URLが変更になっている。<https://intra.nufs.ac.jp/教職員のみなさんへ/faq> 教員用（2020/09/19確認）。
- ⁵ 1回の問い合わせで複数の機能に渡る質問をしていた場合があるため、合計は表2の数値より多くなっている。
- ⁶ 表23の総計が常勤の回答者数（98名）を上回っているが、その理由としては、回答者が「常勤のみ回答を」という文言を見落として回答した可能性が考えられる。

補足資料1 「オンライン授業に関する学生アンケート調査」調査項目

1期のオンライン授業全般についてお尋ねします。質問は全部で12あります。コロナウィルスの感染状況によっては、今後もオンライン授業が実施される可能性があります。そこで学生の皆さんのご意見をうかがって、今後の授業改善に役立つような資料をまとめてたいと思います。本調査は無記名式で行い、他の目的には一切使用いたしません。ご協力をお願いいたします。なお、できるだけアンケート回収率を高めるために、各学科でアンケートの回答を促す機会を設けていただくようお願いしております。必修授業などで先生方からの声掛けがあると思います。より効果的な学びを実現するためにも、皆様の忌憚のないご意見をお願いいたします。

(調査担当： 名古屋外国語大学 MIDセンター)

- A. 学年（入学年度でお答えください。）
1. 2020年度（学部生）
 2. 2019年度（学部生）
 3. 2018年度（学部生）
 4. 2017年度以前（学部生）
 5. 大学院生
- B. 所属（学科、専攻）
1. 英米語学科英米語専攻
 2. 英米語学科英語コミュ専攻
 3. 英語教育学科／英米語学科英語教育専攻
 4. フランス語学科
 5. 中国語学科
 6. 世界教養学科
 7. 日本語学科／国際日本学科
 8. 世界共生学科
 9. 現代英語学科
 10. 国際教養学科
 11. グローバルビジネス学科
 12. 国際コミュニケーション研究科
- C. あなたの現在の学習環境に問題はありますか。通信環境、自宅の生活騒音などを総合的に判断ください。
- 問題はない
- ほとんど問題はない
- 少し問題がある
- 大いに問題がある

問1. 1期のオンライン授業について、全体としての「満足度」を授業方法別、授業系列別に評価して下さい。* (1)リアルタイム方式…Meet／Zoomなどを用いて時間割上の時間帯で行う授業、(2)オンデマンド方式…収録ビデオを視聴し課題を提出する授業、(3)資料・課題提示方式…配信された教材を自学習し課題を提出する授業

行 列

1. 授業方法－ (1)リアルタイム方式 非常に満足
2. 授業方法－ (2)オンデマンド方式 満足
3. 授業方法－ (3)資料・課題提示方式 ふつう
4. 授業系列－語学演習科目 不満
5. 授業系列－専門演習科目 非常に不満
6. 授業系列－ゼミナール科目 履修なし
7. 授業系列－講義科目

問2. あなたが受講しているオンライン授業では、小テストや課題、意見交換などを通した理解度の確認がどの程度実施されていますか。最も近いものを選んでください。その他の場合はできるだけ具体的に書いてください。

すべての授業

ほとんどの授業

半数程度の授業

一部の授業

ほとんどない

その他

問3. あなたが受講しているオンライン授業では授業内容などに関する疑問に対して担当教員からの適切なサポートが十分にありましたか？ 最も近いものを選んでください。

全ての授業でサポートがある

多くの授業でサポートがある

サポートがある授業は少ない

ほとんどの授業でサポートがない、または全くない

問4. オンライン授業で困っていることについて、当てはまることがあれば選択して下さい。その他の場合はできるだけ具体的に書いてください。特にない場合はその他に「なし」と書いてください。(複数回答可)

先生に質問がしにくい

教員からのフィードバックがない

集中力が続かない

授業で使用されるシステムの使い方がよくわからない

コンピュータの操作に慣れていない

ネット環境に不具合がある

課題が多い

授業の教材がわかりにくい
 学習のペースがつかみにくい
 友達と一緒に学べず孤立感を感じる
 その他

問5. オンライン授業で良かったと思うことについて、選択して下さい。その他の場合はできるだけ具体的に書いてください。特にない場合はその他に「なし」と書いてください。(複数回答可)

自分のペースで学習出来る
 自宅で学習できる
 教室より集中出来る
 教材がわかりやすい
 復習が何度も出来る
 先生に質問がしやすい
 コンピュータやオンラインのツールについて知識やスキルが高まる
 移動が不要で効率が良い
 課題などのデータ管理がしやすい
 その他

問6. 対面授業とオンライン授業で、授業内容の学習効果は等しいと思いますか。

対面の方が学習効果が非常に高い
 対面の方が学習効果が高い
 両方同じくらい
 オンラインの方が学習効果が高い
 オンラインの方が学習効果が非常に高い
 授業により異なる

問7. 問6に対する回答について、その理由を記述して下さい。

問8. オンライン授業に関して大学に行なってほしい講習はありますか(複数回答可)

eラーニングプラットフォーム (Moodle、Classroom など)
 web会議ツール (Meet、Zoom など)
 Office ソフトウェア (Word、Excel、PowerPoint など)
 デバイスの操作 (パソコン、タブレット、スマホなど)
 その他

問9. 今後のコロナウィルスの感染状況によっては、オンライン授業が継続される可能性があります。1期の状況を踏まえ、皆さんが改善を望むことがあれば自由に記述して下さい。

補足資料2 「オンライン授業に関する教員アンケート調査」調査項目

今後のCOVID-19の感染状況によりましては、2期もオンライン授業になる可能性がございます。そこで本調査は、「1期でのオンライン授業の実施状況を把握し、情報提供するとともに、授業改善および効果的な実施方法をご提案する」ことを目的に実施いたします。これまで随時調査を受けられたことと存じますが、半期を終えた時点で改めて統一した質問項目にて全教員にお尋ねするものです。本調査は無記名式で、質問項目は全部で16問です。学期末のお忙しい時期ではありますが、どうぞご協力をお願いいたします。（*は必須回答項目）

I. 【基本情報】

雇用形態

所属（常勤の方のみ回答ください。学部共通の先生はより多くの授業を受け持っている学科をお選びください。）

II. 【オンライン授業全般について】

1) 今学期オンライン授業を実施した総合的なご感想についてお答えください。*

- 良かった
- まあまあ良かった
- どちらとも言えない
- あまり良くなかった
- 良くなかった

2) 今学期以前のオンライン授業実施のご経験についてお答えください。*

- 今学期が初めて
- 以前にもオンライン授業を受け持ったことがある

3) オンライン授業全般でお困りのことについて、当てはまるものをお答えください。(複数選択可)*

- 特に困っていることはない
- 自分の通信環境(自宅・研究室両方)
- 自分の授業環境(自宅・研究室両方)(例:静かな環境が確保できない等)
- 学生の通信環境
- 学生の授業環境
- 学生の印刷環境
- 学生のツールに関する知識不足
- 通信費用などの負担
- ツールの不安定さ
- 資料共有時のセキュリティ(授業録画、パワーポイントなど)
- その他: _____

Ⅲ. 【授業内容・運営について】

4) 今学期行ったオンライン授業の形式についてお答えください。授業規模と授業系列それぞれの項目についてお答えください。(複数選択可)*

授業をご担当でない場合は、該当なしをご選択ください。また、規模は同じでも授業内容によって形態を変えているような場合は、使用形態を複数選択してください。

	A.リアルタイム方式	B.オンデマンド方式	C.資料・課題方式	A,B,Cいずれかの組み合わせ	その他	該当なし
小規模講義 (20名未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
中規模講義 (20~60未満)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
大規模講義 (60名以上)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
授業系列- 語学演習科目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
授業系列- 専門演習科目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
授業系列- ゼミナール科目	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4) 追加質問：「その他」をお答えの方は、その具体的な内容をお書きください。

5) 以下のオンラインプラットフォームについて、今学期いくつかの授業でご使用になったかをお答えください。使用していない場合は0を選択ください。選択肢は0～10まであります。選択肢がすべて表示されていない場合は、右にスクロールしてください。*

	0	1	2	3	4	5	6	7	8
Google Classroom	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Moodle	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Meet	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
Zoom	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
YouTube Live	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
YouTube	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
SNS	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
その他	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

5) 追加質問：問5で「その他」をお答えの方のみ、その具体的な内容をお書きください。

6) 今学期実施した、学生の授業内容の理解度の確認方法について、当てはまるものをお答えください。（複数回答可）*

- 特に理解度は確認しなかった
- 小テスト
- 課題
- 意見交換
- プレゼンテーション
- 定期テスト
- その他:

7) 学生からの授業内容などに関する質問に対して、どの程度サポートを行いましたか。*

- 全ての質問に対してサポートを行った
- ほとんどの質問に対してサポートを行った
- ある程度サポートを行った
- 質問に対するサポートはほとんど行わなかった
- 質問に対するサポートは全く行わなかった
- 学生からの質問はなかった

8) オンライン授業において工夫していらっしゃる授業方法があれば、お書きください。

IV. 【学習効果について】

9) 学習効果について、総合的、授業規模、授業系列別のそれぞれの項目にお答えください。*

授業をご担当でない場合は、該当なしをご選択ください。

	対面の方が 非常に高い	対面の方が 高い	両方同じく らい	オンライン の方が高い	オンライン の方が非常 に高い	該当なし
全授業において総合的に	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
小規模講義 (20名未満)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
中規模講義 (20~60名未満)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
大規模講義 (60名以上)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
授業系列- 語学演習科目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
授業系列- 専門演習科目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
授業系列- ゼミナール 科目	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

10) 問9の「総合的な学習効果」の選択肢をお選びになった理由をお書きください。

V. 【オンライン授業の利点・欠点】

11) オンライン授業だからこそ実施できた授業内容があれば、お書きください。
差し支えなければ、授業名と内容両方の記述をお願いします。

12) オンライン授業のために実施できなかった授業内容があれば、お書きください。
差し支えなければ、授業名と内容両方の記述をお願いします。

13) オンライン授業の利点として挙げられるものを、下記の選択肢からお選びください。(複数回答可) *

- 出席が把握しやすい
- 出席率が良い
- 遅刻が少ない
- 学生が寝ない
- 課題が出しやすい
- 成績が管理しやすい
- 授業運営の幅が広がる
- 通勤にかかる時間がない
- 時間的制約がない
- 授業準備が楽
- 学習進度が把握しやすい
- 私語をコントロールできる
- 授業内容を記録しておける
- 学生の発言が増える
- 学生間の交流が増える
- 学生に自律学習能力が身に付く
- 資料の提示がしやすい
- その他: _____

14) オンライン授業で困っていることを、下記の選択肢からお選びください。
(複数選択可) *

- 出席が把握しにくい
 - 出席率が悪い
 - 遅刻が多い
 - 課題が多くならざるを得ない
 - 授業運営に制約がある
 - 対面よりも授業準備に時間がかかる
 - 学習進度が把握しにくい
 - 学生の集中度をコントロールできない(私語・他事を含む)
 - 学生の発言が少ない
 - 学生とのコミュニケーションがとりにくい
 - 学生間の交流が少ない
 - 授業進度についていけない学生が増えた
 - その他: _____
-

VI. 【将来的なオンライン授業の実施について】

15) オンライン授業に関して、大学からのどのようなサポートを希望されますか。(複数選択可) *

- エラーリングプラットフォームの講習会 (Moodle, Classroom)
 - Web会議ツールの講習会 (Meet, Zoom)
 - デバイスの操作の講習会 (パソコン、タブレット、スマホなど)
 - オンライン授業用ガイドラインの提示
 - 役立つ情報の共有
 - 授業例の提示
 - テクニカルサポートの充実
 - その他: _____
-

16) 今後のコロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業が継続される可能性があります。1期の状況を踏まえ、大学に改善を望むことがございましたら、ご自由にお書きください。

アンケート内容は以上です。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。